

平成 28 年 度

(平成 27 年度事業対象)

桶川市教育委員会

点検評価報告書



平成 28 年 8 月

桶川市教育委員会

あいさつ

昨年度から新しい教育委員会制度がスタートし、これまで3回の「総合教育会議」を行いました。

桶川市教育委員会は、教育行政基本方針の教育理念と基本目標（いわゆる「桶川市教育大綱」）を策定し、2年目を迎えます。基本理念である、「生きる力を育み未来へはばたく桶川の教育」を着実に実現するための6つの大きな基本目標の柱を今年度も引き継ぎます。

- I 確かな学力の育成と質の高い教育環境の充実
- II 豊かな心の育成と人権意識の高揚
- III 健やかな躰の育成
- IV 家庭・地域の教育力の向上
- V 生涯にわたる学びとスポーツの支援
- VI 伝統文化・芸術の振興と文化財の保存・活用

この点検及び評価は8年目となりました。今年度から、「目標(値)」を設け、今後、目標(値)と実績を比較することにより、事業の成果や反省をさらに検証できると考えております。

今後とも教育を取り巻く諸情勢の変化を的確にとらえながら、教育行政の推進を効果的、かつ積極的に進めて参りたいと考えておりますので、皆様のご理解ご協力をお願い申し上げます。

平成28年8月

桶川市教育委員会

教育委員名簿

(平成28年8月24日現在)

委員長	水村 実男
委員長職務代理者	湯浅 哲朗
委員	小野原 典子
委員	佐藤 悦代
委員(教育長)	前島 富雄

目 次

I 趣旨、点検及び評価の基本方針

II 教育委員会の事務に関する点検評価結果（点検評価シート）

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
教育総務課	就学前教育の支援・充実	幼稚園就園奨励事業	6
		入学準備金貸付事業	7
	学校教育の充実	小学校整備事業	8
		中学校整備事業	9
教育総務課 学校支援課	学校教育の充実	情報活用能力の育成を図る情報教育の推進事業	10
学校支援課	学校教育の充実	小・中学校給食業務	11
		補助員配置事業	13
		学校図書館教育補助員配置事業	16
		英語指導助手配置事業	17
		教育相談事業	18
		中学生社会体験チャレンジ事業	19
		進路意識啓発事業（ふれあい講演会）	20
		ことばの教室事業	21
		桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業	22
		学校応援団推進事業	23
		教職員の資質・能力の向上推進事業	24
		主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業	26
		福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業	27
小・中学校図書購入事業	28		
学校支援課 学務課	学校教育の充実	就学援助事業	29
学務課	学校教育の充実	学校評議員会の設置事業	30
		学校関係者評価委員会の設置事業	31
		教職員の管理業務	32
		教職員の資質・能力の向上推進事業	33
生涯学習 文化財課	就学前教育の支援・充実	P T Aリーダー研修会	34
		P T A家庭教育講演会	35
		「親の学習」講座	36

課（館）	第五次総合振興計画の施策	事業名	P
生涯学習 文化財課	青少年の健全な育成	成人式典	38
		放課後子供教室事業	39
		青少年健全育成事業	40
	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習情報の提供	42
		職員出前講座	43
		市民大学の開催	45
		文芸桶川発行	47
		パソコン講習とサポート事業	48
		生涯学習推進体制の整備	49
		学習ボランティア推進事業	51
	人権教育・啓発と平和の推進	人権教育の推進	52
	文化・芸術の振興・保存・継承	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業	54
		民俗芸能保存事業交付金交付事業	57
		後谷遺跡出土品保存処理事業	59
		指定文化財調査事業	61
スポーツ 振興課	生涯学習・生涯スポーツの充実	スポーツ指導者育成事業	62
		スポーツ団体への支援事業	63
		スポーツ施設維持管理事業	64
公民館	就学前教育の支援・充実	幼児・家庭教育セミナー事業	65
	生涯学習・生涯スポーツの充実	講座開催事業	66
		加納公民館エレベーターの設置事業	67
図書館	生涯学習・生涯スポーツの充実	管理運営事業	68
		図書館業務推進事業	69
		駅西口図書館整備事業	70
歴史民俗 資料館	生涯学習・生涯スポーツの充実	生涯学習センター管理事業	71
	文化・芸術の振興・保存・継承、	資料調査・収蔵事業	72
	生涯学習・生涯スポーツの充実	教育普及事業	73

1 趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条により、教育委員会は、毎年、教育長に委任した事務を含め、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表することとされています。この報告書は、同法に基づき、桶川市教育委員会が行った点検及び評価の結果をまとめたものです。

2 点検及び評価の基本方針

(1) 目的

桶川市教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を議会へ報告するとともに市民に広く公表することを目的としています。

(2) 点検及び評価の対象と方法

桶川市では、新たに平成23年4月より次の10か年を期間とした「桶川市第五次総合振興計画」がスタートし、教育行政の基本方針もこの計画を基に策定していることから、各課（館）で実施している個別事業を点検及び評価の対象とし、評価方法については、個別事業ごとに「桶川市第五次総合振興計画」の「施策の大綱」、「施策」、「基本事業」を選択し、「事業実績」、「実績に対する評価」、「28年度以降の取組み」について点検及び評価を実施しています。また、平成28年4月から「目標(値)」を設け、効果の検証を深めることとしました。

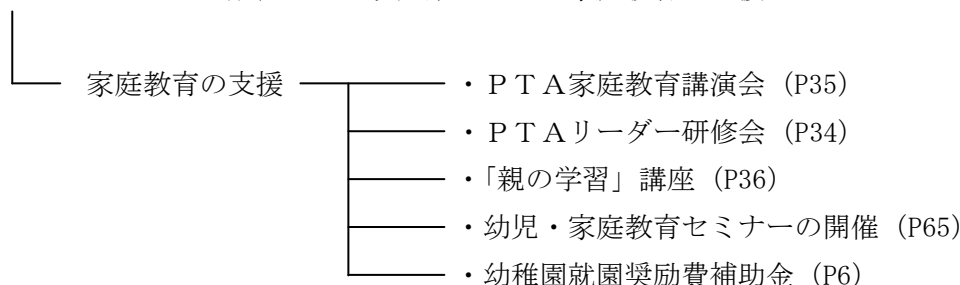
3 事業体系

平成27年度に桶川市教育委員会が実施した事業体系は、次頁のとおりです。

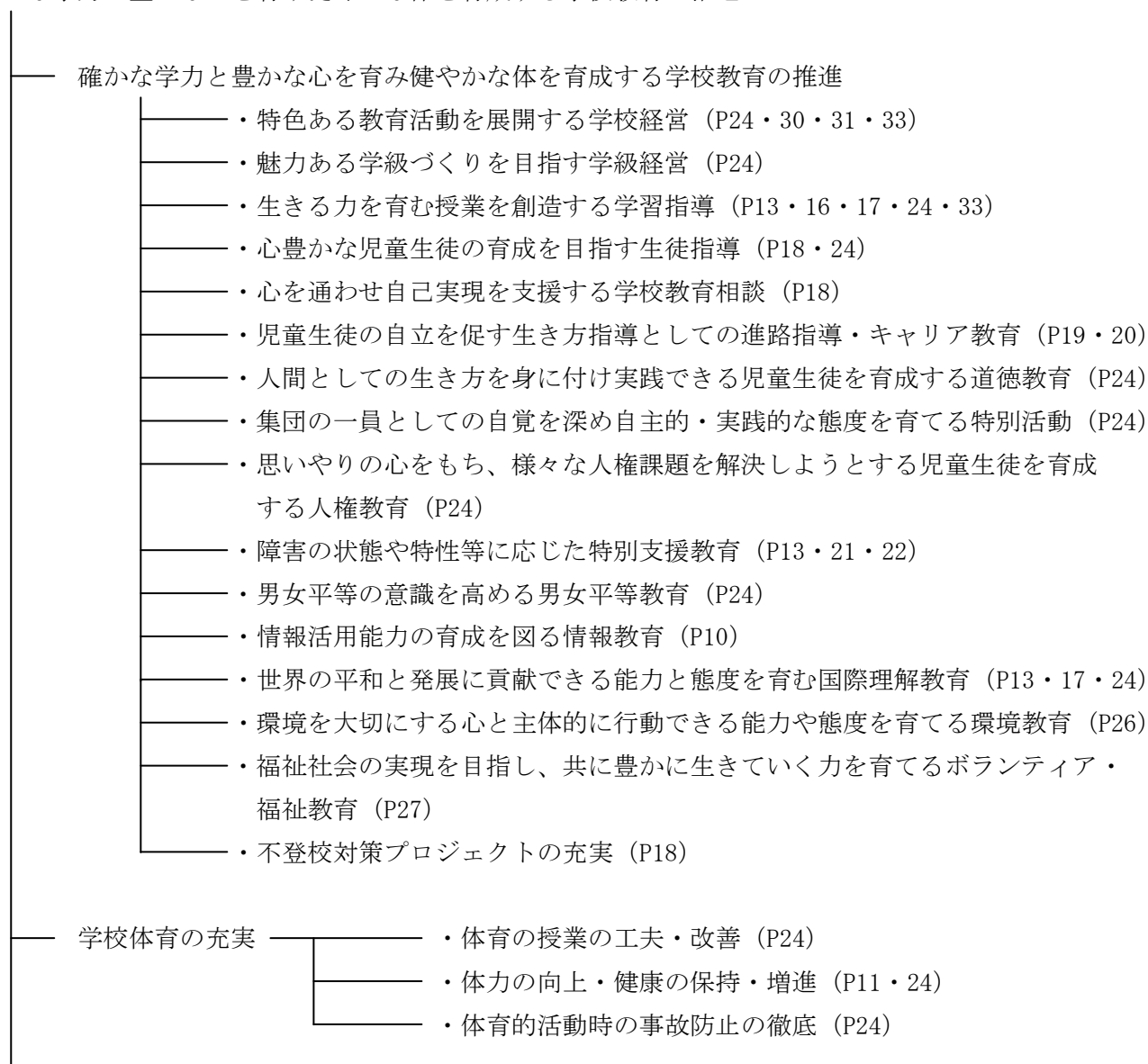
※平成27年度「桶川の教育」より

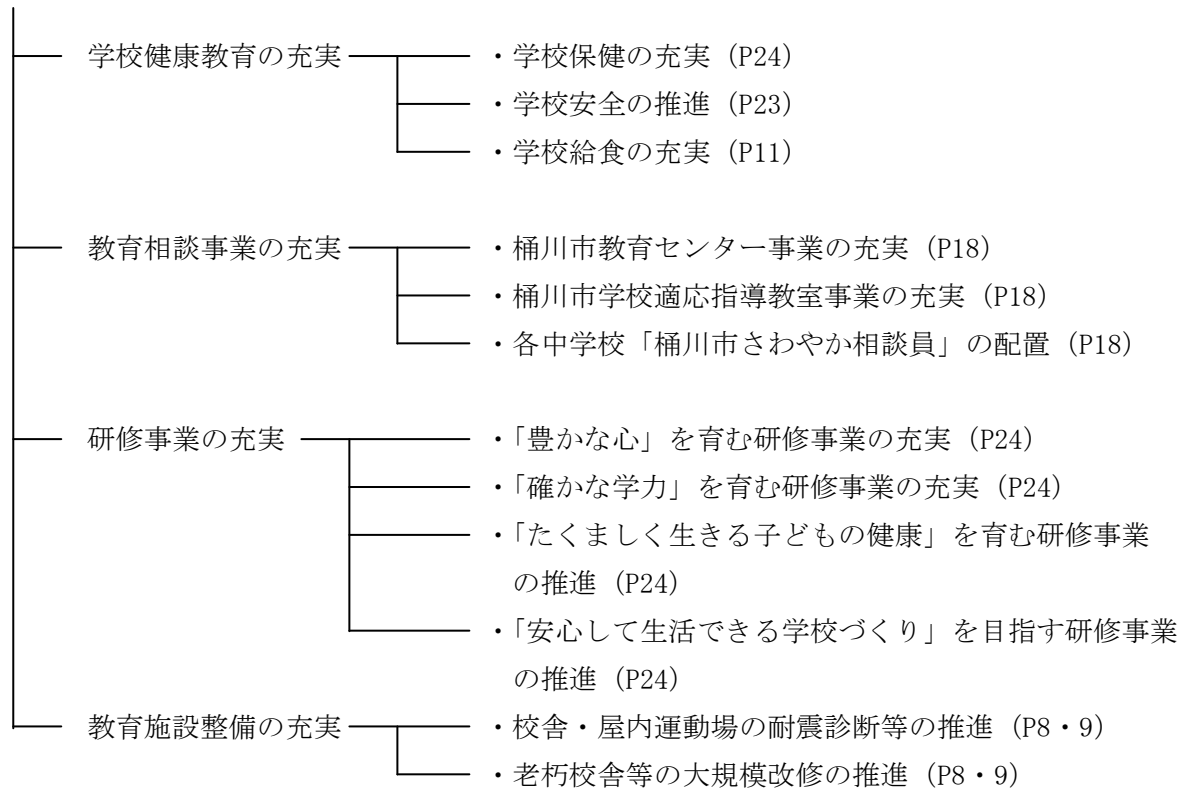
平成27年度桶川市教育委員会事業体系図

1 心身ともに健やかに成長できる幼児期における家庭教育の支援

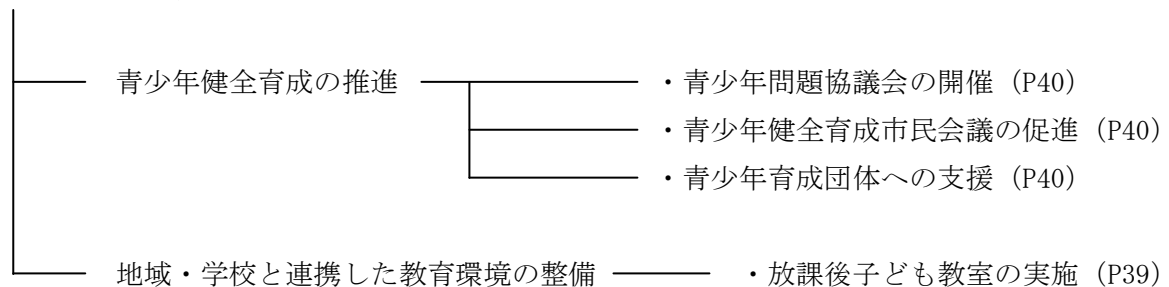


2 確かな学力と豊かな心を育み健やかな体を育成する学校教育の推進

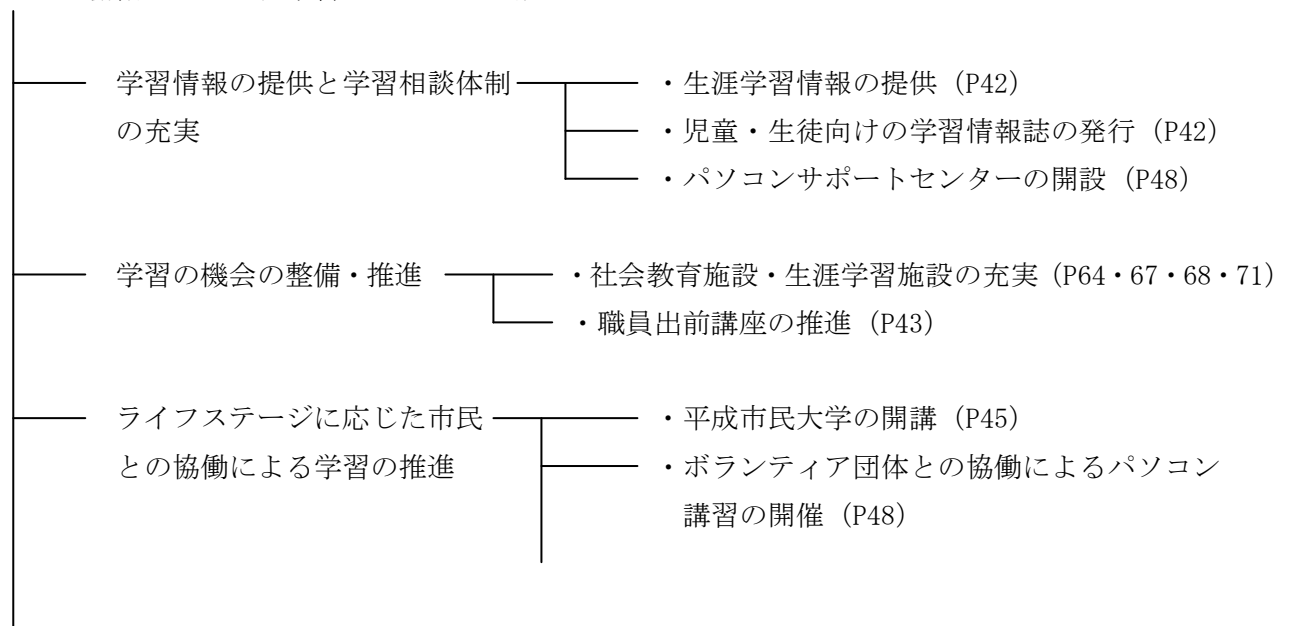




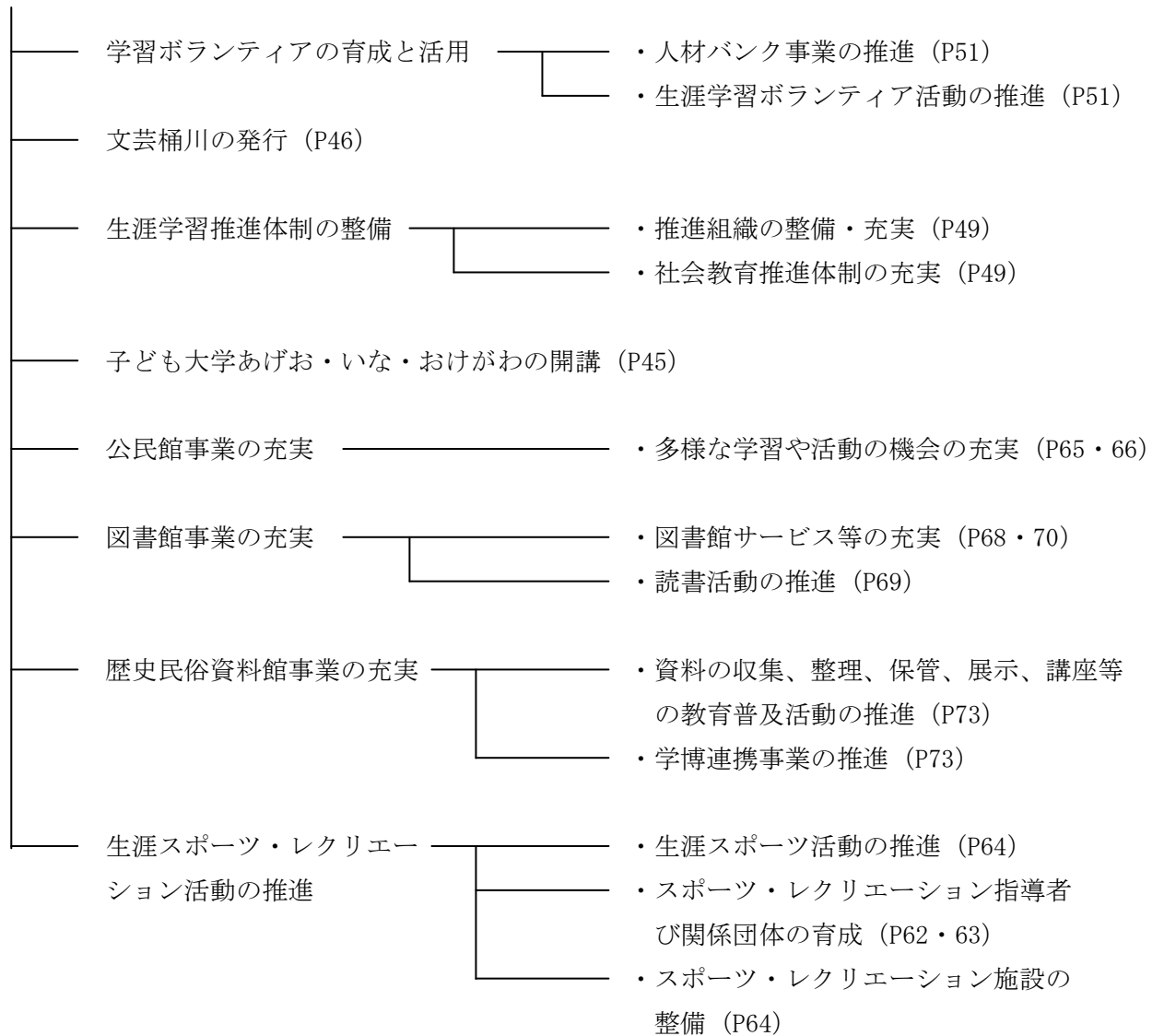
3 家庭と地域の連携の下に青少年の社会性を育む環境づくりの推進



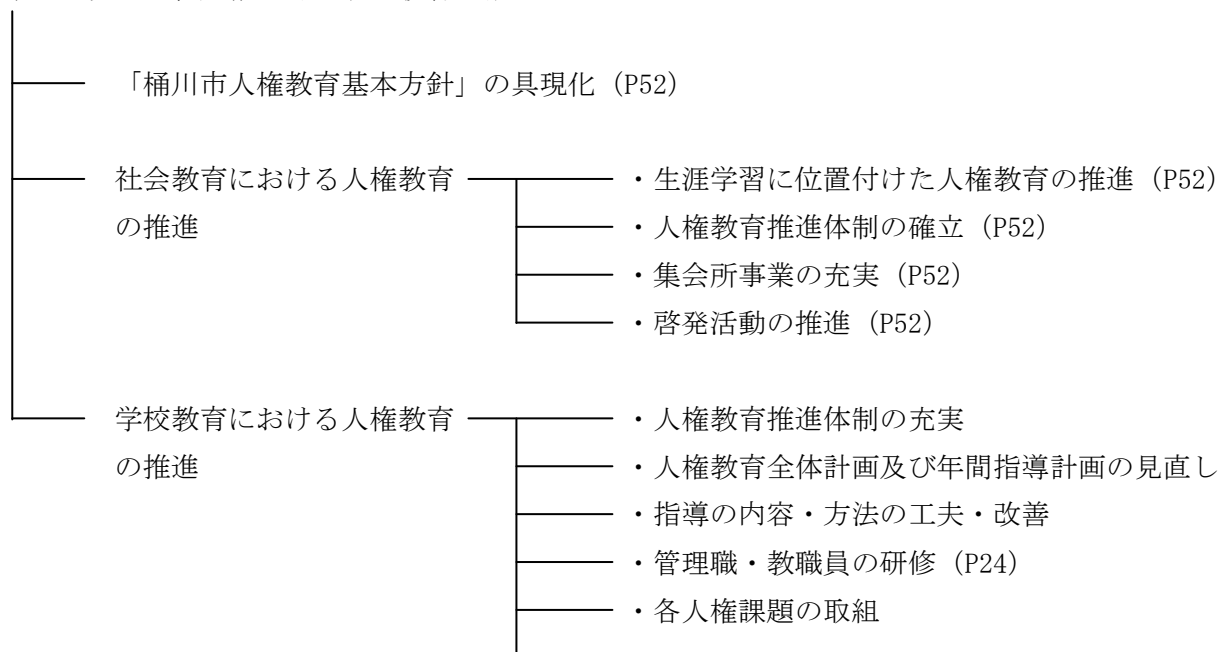
4 市民との協働による生涯学習・スポーツの推進



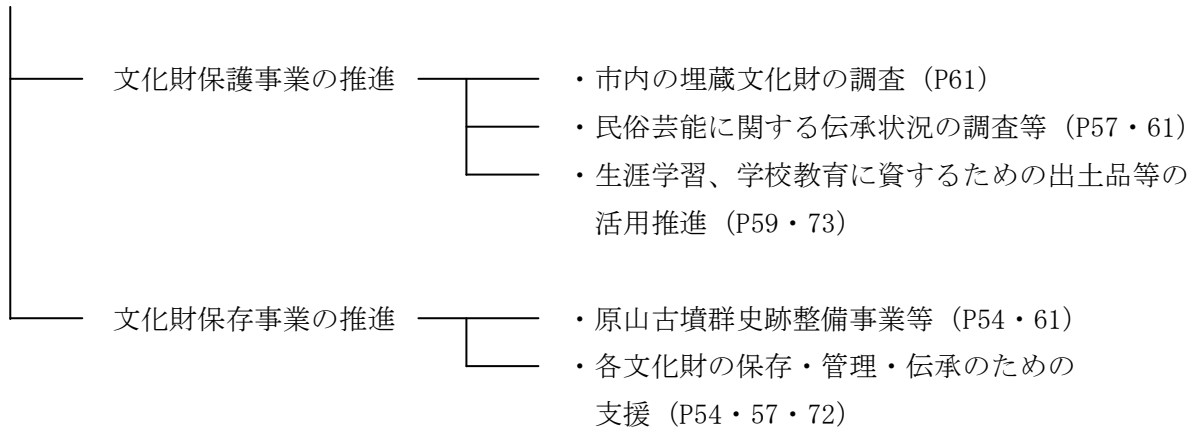
——— ・市民との協働による成人式典の開催 (P38)



5 生命を大切にし、人権を尊重する教育の推進



6 文化・芸術の振興と文化財の保存・活用の推進



施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	幼稚園就園奨励費の拡充（2013）		
事業名	幼稚園就園奨励事業		
予算額	88,333,000円	決算額	87,380,500円

1 事業概要

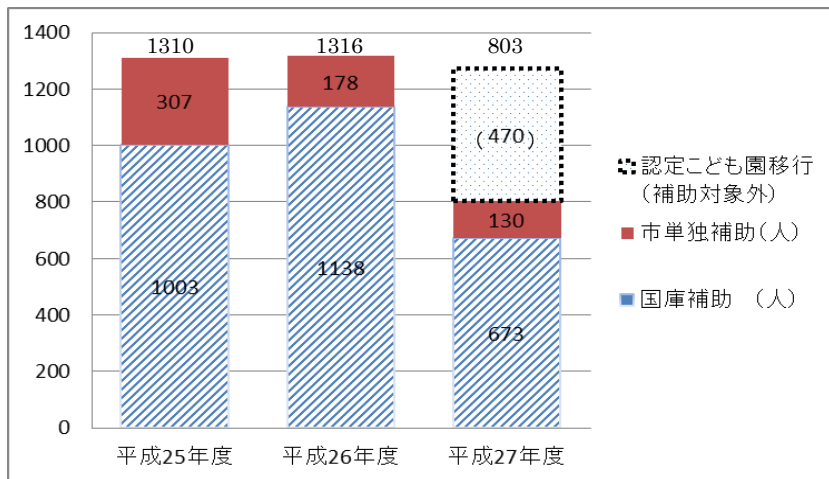
保護者負担を軽減するため、幼稚園設置者の協力を得て保護者に対し就園費用の一部を補助し、幼稚園への就園を奨励した。

2 事業実績

(1) 幼稚園就園奨励費補助金

国庫補助対象分として673人、86,333,800円、市単独補助分として130人、875,300円を補助した。

＜過去3年間の補助対象者数の推移＞



平成27年4月1日より施行の「子ども・子育て支援新制度」により、桶川市内3園及び市外の幼稚園が認定こども園又は施設型給付費の支給を受ける幼稚園へ移行したため、平成27年度においては、対象人数及び事業費が大幅な減少となった。

(2) 私立幼稚園事務費助成金

幼稚園就園奨励費補助金の事務に対する補助として、市内4園に対し、総額171,400円を交付した。

3 上記2に対する評価

(1) 幼稚園設置者の協力のもと、保護者からの申請に基づき補助金を交付したが、交付基準に沿って遅滞なく支払事務を完了することができた。

(2) 保育料等に対する補助を行うことで通園している園児の保護者の経済的負担の軽減を図ることができた。

4 28年度の目標(値)

引き続き、制度の理解や周知を図る。

5 28年度以降の取組

子育て世代の保護者負担の軽減を図ることができることから平成28年度以降も引き続き支援を行っていく。

幼児教育の段階的無償化に伴う制度改正に対応できるよう、私立幼稚園システムの改修及び補助金の算定方式の変更を行う。

点検評価シート

【教育総務課】

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	入学準備金貸付事業		
予算額	4,800,000円	決算額	2,600,000円

1 事業概要

経済的に不安を抱える生徒の保護者に対して高等学校、大学、専門学校等への入学にかかる費用の貸付を行った。

2 事業実績

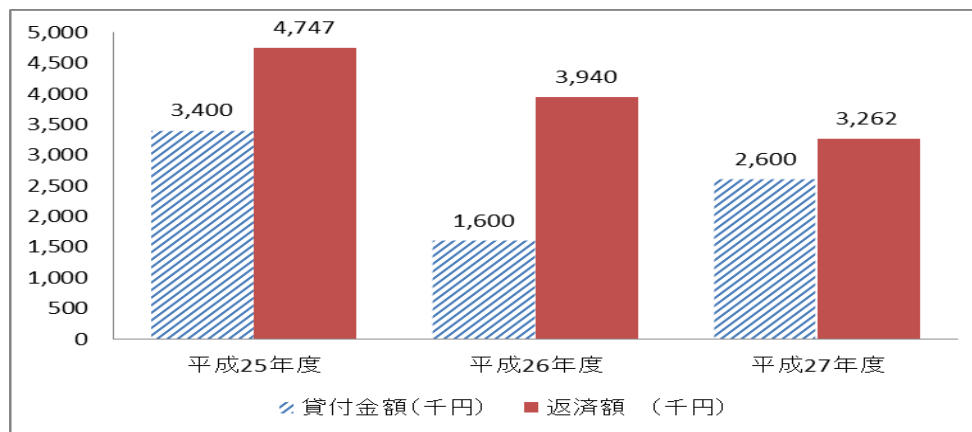
(1) 貸付状況

平成27年度の貸付申込者は14人であった。内5人が連帯保証人の要件を満たす者がいない理由等で辞退し、9人については審査の上、貸付を行った。

＜過去3年間の貸付の推移＞

年度	貸付金額	件数	内 訳
25	3,400,000	13	高校 9、専門学校 0、大学 4
26	1,600,000	5	高校 2、専門学校 0、大学 3
27	2,600,000	9	高校 5、専門学校 0、大学 4

(2) 貸付総額に対する返済の状況



3 上記2に対する評価

(1) 事業状況

平成27年度、事業についてホームページ、広報、市内中学校に通知等を行っているが申請の問い合わせは少なく奨学金等の問い合わせが多々ある状況である。貸付件数と需要件数の統計は困難だが、必要な方に必要な支援を行うことができた。

(2) 償還困難となっている案件については、訪宅や電話連絡、また顧問弁護士への相談など行ってきたが、未返済金額を減らすことには至らなかった。

4 28年度の目標(値)

引き続き、制度の理解や周知を図る。未償還分の経緯を把握し、個別に対応する。

5 28年度以降の取組

償還困難となっている長期の案件については、納付を促す働き掛け等を行う。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	小学校整備事業		
予算額	87,393,000円	決算額 (繰越明許費)	28,302,847円 (58,998,000円)

1 事業概要

学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。

2 事業実績

(1) 工事について（主な工事）

(単位：円)

工 事 名	予算現額	決 算 額	工事完了日
川田谷小北校舎雪止及び雨樋改修工事	1,088,000	1,087,398	平成28年3月22日
日出谷小高圧気中負荷開閉器更新工事	1,200,000	1,134,000	平成27年8月5日
小学校防火シャッター改修工事	8,020,400	5,940,000	平成27年9月9日
朝日小プールろ過機改修工事	9,500,000	8,920,800	平成28年1月15日

<繰越事業>

- ①川田谷小プールろ過機改修工事 2,700,000円（前払金）
※契約額：6,966,000円（残額4,266,000円は28年度へ繰越）
- ②桶川小プール改修工事 2,332,800円（契約額）
- ③桶川小校庭整備工事 40,000,000円（予算額）

(2) 委託について

<繰越事業>

- ①桶川市学校施設老朽化対策基本計画策定委託 6,597,818円（契約額）
- ②桶川小校庭整備工事設計委託 4,536,000円（契約額）

3 上記2に対する評価

- (1) 緊急性や小学校の要望等を踏まえ、適切に修繕を進めることができた。
- (2) 朝日小プールろ過機改修工事により児童の学習環境の改善を図ることができた。
- (3) 防火シャッターに危害防止装置を設置することにより児童の安全を図ることができた。
- (4) 桶川市学校施設老朽化対策基本計画を策定するため劣化診断調査を実施し、学校施設の実態を把握した。

4 28年度の目標(値)

桶川市学校施設老朽化対策基本計画を策定し、学校施設の老朽化対策に着手する。

5 28年度以降の取組

- (1) 学校施設の改修や維持管理等について「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、順次計画的に整備を行う。
- (2) 施設の修繕については、28年度以降も緊急性等を加味しながら実施していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校施設の整備（2023）		
事業名	中学校整備事業		
予算額	11,031,000 円	決算額 (繰越明許費)	6,973,641 円 (3,771,000 円)
1 事業概要			
学校の教育力の維持向上のため、安全で快適な学習環境を整備した。			
2 事業実績			
(1) 工事について（主な工事）			
（単位：円）			
工 事 名	予算現額	決 算 額	工事完了日
東中屋上防水部分補修工事	610,000	609,854	平成27年7月10日
西中高圧気中負荷開閉器更新工事	1,400,000	1,036,800	平成27年8月5日
東中屋上防水工事	1,299,000	1,298,430	平成27年10月16日
(2) 委託について			
<繰越事業>			
①桶川市学校施設老朽化対策基本計画策定委託 3,770,182 円（契約額）			
3 上記2に対する評価			
(1) 緊急性や中学校の要望等を踏まえ、適切に修繕を進めることができた。			
(2) 桶川市学校施設老朽化対策基本計画を策定するため劣化診断調査を実施し、学校施設の実態を把握した。			
4 28年度の目標(値)			
桶川市学校施設老朽化対策基本計画を策定し、学校施設の老朽化対策に着手する。			
5 28年度以降の取組			
(1) 学校施設の改修や維持管理等について「桶川市学校施設老朽化対策基本計画」に基づき、順次計画的に整備を行う。			
(2) 施設の修繕については、28年度以降も緊急性等を加味しながら実施していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	情報活用能力の育成を図る情報教育の推進事業		
予算額	14,059,760円	決算額	11,250,257円

1 事業概要

学校におけるICTの活用を推進するため、教育計画に位置付け、学習指導方法や教材を工夫するとともに、タブレットPCの段階的導入等、諸条件の整備を行った。

2 事業実績

- (1) 各校において全体計画を策定し、教科及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。
- (2) 児童生徒用のタブレットPCを、新たに1中学校に導入した。
- (3) 教育機器の効果的な利用と指導方法

年度	H26	H27	H28
PCルーム	東小	東中	日小・加小
TBPC	(11台)	(11台)	(各11台)
参考 (iPad)		全11校 (1校11台)	

の工夫改善について、教員の指導力の向上を図るため、市教育研究会主催の研修会を実施した。その中で、外部指導者による講演とともに、各校の実践について情報交換を行った。参加教員11人（各校1人）

(iPad・理科コンテンツ研修会を全8回＜全167人参加＞開催した。)

3 上記2に対する評価

- (1) 電子黒板・プロジェクター・実物投影機について、それぞれの教科等の特性に応じた視覚効果のある活用で児童生徒の興味関心の高揚が図られた。
- (2) 児童生徒用のタブレットPCが、4校に整備されたが、校内無線LAN環境等がなく、主にPCルームにおいて使用されている。タブレットPCの特性を考えると、普通教室等での利用が望ましい。今後普通教室でも使用可能とする校内無線LAN環境等の条件整備を進めていく。また、現在の状況でもできる活用方法について研究していく必要がある。
- (3) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙の結果では、「ICTを活用して、子供同士が教え合い学び合う学習や課題発見・解決型の学習指導の実施」について、「よく行った」「どちらかといえばよく行った」と回答した学校が、前年度より大きく増加した。今後も、ICTを活用した授業の実践を積み重ね、効果的な活用について研究する必要がある。

4 28年度の目標(値)

- (1) 児童生徒用のタブレットPCを、新たに2小学校に導入する。
- (2) 小・中学校校務用PCを全台入れ替えをする。
- (3) ICT活用についての各校での推進者養成の研修を実施する。(年間2回開催・各校1名参加)

5 28年度以降の取組

- (1) タブレットPCや教育用コンテンツを使用し、他の視聴覚及び情報機器を活用した授業ができるよう、条件整備を進める。
- (2) ICTを活用した授業の実践について、各校の取組の情報を共有し、より効果的な活用を推進するために「桶川市ICT教育推進研究協議会」を実施し、各校におけるICT活用推進教員の養成を行い、各校での活用を進める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	小・中学校給食業務		
予算額	209,010,000円	決算額	208,079,286円
1 事業概要			
(1) 桶川市学校給食運営事業 学校給食の実施計画、給食用物資選定及び献立作成等については、桶川市学校給食運営委員会で検討した。			
(2) 学校給食調理業務 各小・中学校の学校給食は自校方式で行っている。調理業務については、（公財）桶川市施設管理公社に委託した。			
(3) 学校給食の放射線量測定 学校給食用食材の放射線量の測定を、市内小中学校11校全校において順番に実施した。			
(4) 食育の推進 栄養教諭等を中心とした食育指導の充実を図る取組を行った。			
2 事業実績			
(1) 桶川市学校給食運営事業			
ア 給食費 小学校：月4,000円（1食234円） 実施回数 年間191回 中学校：月4,550円（1食272円） 実施回数 年間187回			
イ 献立作成 桶川市学校給食運営委員会専門部会において、栄養教諭・学校栄養職員で構成される献立検討会を毎月3回実施し、地産地消の観点から地元産の食材を利用した献立作成に努めた。			
ウ 桶川市学校給食運営委員会 学校給食運営上の課題（諸会議の運営方法、給食用物資選定の方法、給食残渣等）について、改善に向けた協議を行い、平成28年度取組計画を策定した。			
(2) 学校給食調理業務			
ア 学校給食調理業務委託（193,119,468円） 給食用物資の調達・発注、物資納入業者との契約・指導、献立に基づく調理及び食器等の洗浄、給食室内の衛生管理等について、（公財）桶川市施設管理公社に委託した。			
イ 調理作業機器等の更新（6,862,808円） 調理機器（丸型フライヤー）[桶川東中] 洗浄機器（食器洗浄機）[加納中] 加熱機器（熱風保管庫）[桶川中] その他の給食関連機器（二槽シンク等）			
ウ 給食室備品の点検・保守（2,567,036円） 検査委託、グリストラップ、設備保守、設備洗浄、消毒等			
(3) 学校給食の放射線量測定（1,236,788円）			
ア 給食用食材の測定 消費者庁の放射線測定機器第4次配備計画による測定機器の貸与があり、4月から翌年3月まで3品目を週4回1校ずつローテーションで放射線量の測定を実施した。			
(4) 食育の推進			

- ア 桶川東小・朝日小・桶川小の3校に栄養教諭を配置し、栄養教諭及び学校栄養職員を中心として食育の推進事業を行った。
- イ 桶川小において、食育指導力授業研究協議会を開催し、栄養教諭等が学級担任と連携した食育に関する授業研究会を実施した。

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市学校給食運営委員会の事業について

ア 献立作成

地産地消の促進という観点から、できる限りの食材を地元から確保する努力をし、地元産食材の割合を小中平均で28.5%（平成27年11月現在）にすることができた。

イ 学校給食運営委員会

年4回の学校給食運営委員会を開催し、食物アレルギー対応マニュアルの策定や規約の改正等を検討ができた。

(2) 学校給食調理業務について

ア 学校給食調理業務委託

(ア) (公財)桶川市施設管理公社との調整を経て、安心・安全な食材にて、安定した給食供給を行うことができた。

(イ) 支払業務など事務処理についても、学校事務員及び(公財)桶川市施設管理公社との連絡を充実させることにより、円滑な運営ができた。

イ 調理作業機器等の更新

老朽化した給食設備備品の更新を計画的に行うことができた。

(3) 学校給食の放射線量の測定

計画どおり適切に測定し、測定値をホームページで公表することによって、保護者に対して、安心・安全な学校給食の実施を伝えることができた。

(4) 食育の推進

食育の指導については、学級担任と栄養教諭・学校栄養職員とのティーム・ティーチングによる授業を、学校の年間指導計画に位置づけ、計画的に行うことができた。

4 28年の目標(値)

- (1) 地元産食材の割合を小・中学校平均で30%にする。

5 28年度以降の取組

- (1) 学校給食運営委員会で、学校給食運営上の諸課題について検討し、改善を図る。
- (2) 安心・安全な食材の確保及び地産地消の促進を図る。
- (3) 給食費未納者への対応については、各校の状況を適宜把握するとともに、必要に応じて関係部署と連携を密にして未納の解消に努める。
- (4) 栄養教諭等を活用して、食育の授業の充実と質の向上を目指す。
- (5) 学校における各マニュアルについて、計画的に点検・見直しを行っていく。
- (6) 消費税等の今後の動向を注視し、給食費への影響について検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事 業 名	補助員配置事業		
予 算 額	60,540,000 円	決 算 額	59,906,035 円

1 事業概要

児童生徒一人一人に応じたきめ細かな指導・支援の充実を図るため、各種補助員を小・中学校に配置した。

2 事業実績

	学校名	教育指導補助員	特別支援指導補助員	学校図書館教育補助員	日本語指導員	小1プロブレム支援員	理科支援員
1	桶小	2	5	1	1	1	1
2	加小	2	2	1	1	1	1
3	川小	2	1	1	1	1	1
4	西小	2	4	1		1	1
5	東小	2	2	1	1	1	1
6	日小	2	1	1	1	1	1
7	朝小	2	2	1		1	1
8	桶中	2	1	1	1		
9	東中	2	2	1			
10	西中	2	2	1			
11	加中	2	1	1			

(1) 教育指導補助員配置事業（22,414,425 円）

小学校低・中学年ではおもに学習指導補助（国語、算数、体育）、高学年では音楽におけるピアノ伴奏、理科、算数における学力向上に向けた学習指導補助等を行った。中学校では数学を中心とした学習指導補助の他、保健体育、理科の学習指導補助を行った。また、補助員の資質向上を図るため、研修会を実施した。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

(2) 特別支援指導補助員配置事業（23,325,445 円）

主に技能教科での補助的支援や個別の声かけ、日常生活への適応について支援を行った。また、補助員の資質向上を図るため、研修会を実施した。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

(3) 日本語指導員配置事業（941,320 円）

日本語の指導を要する児童生徒が在籍する小・中学校6校に、2人の補助員を配置した。日本語指導員は、通常の学級に在籍する外国籍の児童生徒に対する支援として、日本語指導及び教育指導の補助にあたった。また、指導員の資質向上を図るため、研修会を実施した。

配置状況：年間40日（原則として週2日、1日4時間）

小学校5校（桶川小、加納小、桶川東小、日出谷小、川田谷小）

スペイン語、中国語、韓国語、ビルマ語

中学校1校（桶川中）中国語

(4) 小学校理科支援員配置事業 (576,000 円)

小学校理科の授業における学習指導補助（実験・観察の準備や片付け、学習の支援等）を行うため、小学校理科支援員を各小学校に1人配置した。（2学期）

また、指導員の資質向上を図るため、巡回指導を実施した。

配置状況：加納小 40日

桶川小・川田谷小・桶川西小・桶川東小・日出谷小・朝日小 20日

(5) 小1プロブレム対策推進事業 (7,104,845 円)

小学校低学年（原則1年生）において学習指導補助や生活支援及び学級支援を行った。また、支援員の資質向上を図るため、研修会を実施した。

配置状況：年間185日（原則として週5日、1日5.5時間）

3 上記2に対する評価

(1) 教育指導補助員配置事業

ア 担任や教科担当と連携し、学習内容の理解に時間を要する児童生徒への支援を行うことにより、一人一人の理解の程度に応じたきめ細かな指導を行うことができた。

イ 「読み」「書き」「計算」など基本的な学力の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。

ウ 多くの支援を必要とする児童生徒もおり、丁寧に対応するためにもより多くの補助員を配置すること及び人員の確保が課題である。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

ア 特別な教育的支援を要する児童生徒にきめ細かで適切な支援を行うことができた。

イ より多くの支援を必要とする児童生徒がいるため、状況に応じて十分な支援を行うためにも、補助員の増員と人員の確保が課題である。

(3) 日本語指導員配置事業

ア 日本語指導員が授業中の学習支援や個別の学習指導を行うことで、支援・指導を受けた外国人児童生徒は、ひらがなやカタカナを習得することができ、日本語による学習に慣れることができた。

イ 日常生活で他の児童生徒とのコミュニケーションが深まり、安心して学校生活を送ることができるようになった。

(4) 小学校理科支援員配置事業

ア 小学校理科の授業における観察・実験の支援や観察・実験の準備、後片付けを行うことで、理科教育の充実を図ることができた。また、指導主事による巡回指導を実施し、より効果的な活用を図ることができた。

(5) 小1プロブレム対策推進事業

ア 第1学年担任と連携し、1年生児童の学校生活適応に係る支援及び教育活動における生活指導・安全指導・教科指導等の支援を行うことにより、一人一人の理解の程度に応じたきめ細かな指導を行うことができた。

イ 「読み」「書き」「計算」など基本的な学力の定着に効果が表れ、学習意欲の向上や落ち着いた学習態度の醸成にも結びついた。

ウ 多くの支援を必要とする児童もおり、丁寧に対応するためにより多くの支援員を配置すること及び人員の確保が課題である。

4 28年度の目標(値)

現在の補助員の人数・配置日数を維持し、理科支援員の配置日数を40日から60日へ増やす。

5 28年度以降の取組

(1) 教育指導補助員配置事業

ア 学力向上を一層充実させるため、児童生徒の実態に応じて補助員の人材確保に努める。

イ 補助員の資質の向上を図るための具体的な指導方法や児童理解の研修を行う。

(2) 特別支援指導補助員配置事業

適切な教育的支援が行えるよう特別支援指導補助員の人材確保と増員、複数年配置する。

(3) 日本語指導員配置事業

外国籍の児童生徒の状況を把握し、継続した日本語指導が行えるよう、指導員の人材確保と増員、複数年配置する。

(4) 小学校理科支援員配置事業

ア 理科教育の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続・増員・配置日数を増やす。

イ 理科支援員を有効に活用できるよう巡回指導等を行い、資質の向上を図る。

(5) 小1プロブレム学級支援員配置事業

ア 小1児童の学校生活の充実を図るため、本事業の効果の検証を行い、継続・増員をする。

イ 支援員の資質の向上を図るための研修をさらに充実させていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	学校図書館教育補助員配置事業		
予算額	5,544,000円	決算額	5,544,000円
1 事業概要	小・中学校に学校図書館教育補助員を配置し、学校図書館教育、読書指導の充実を図った。		
2 事業実績	<p>小・中学校に各1人、学校図書館教育補助員を配置した。（5,544,000円） 配置状況：年間120日（原則として週3日、1日5時間勤務）</p> <p>(1) 児童生徒への読書指導</p> <p>ア 学級担任や教科担当との連携により、総合的な学習の時間や国語科等における学習の補助を行った。</p> <p>イ 学校応援団の図書ボランティアと連携して、始業前や昼休みの時間を活用して、読み聞かせ活動を行った。</p> <p>(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助</p> <p>(3) 学校図書館の環境整備</p> <p>ア 司書教諭と連携して、図書の効果的な配置、季節感のある掲示及び本の紹介を行い、学校図書館の環境整備に取り組んだ。</p> <p>イ 市立図書館から図書の団体貸出を利用し、校内の教育活動に活用した。</p> <p>ウ 補助員対象の研修会を実施した。実施日：平成27年11月9日（月）</p>		
3 上記2に対する評価	<p>(1) 児童生徒への読書指導</p> <p>ア 図書を活用した多様な学習活動が可能となり、各教科の調べ学習や探究的学習が円滑に行われた。</p> <p>イ 朝の読書活動の取組などにより、児童生徒に読書習慣の定着が図られた。</p> <p>(2) 蔵書の修復や整理、貸出し等の補助</p> <p>ア 学校応援団の図書ボランティアと連携して、蔵書の修復や整理等を計画的に行い、学校図書館の環境の向上が図られた。</p> <p>イ 司書教諭と連携し、図書の貸し出しを円滑に行うことができた。</p> <p>(3) 学校図書館の環境の整備</p> <p>ア 蔵書の数を充実させながら、室内の環境を整えることによって、児童生徒が行きたくなる学校図書館を実現することができた。</p> <p>イ 市立図書館と連携することによって、より多くの図書を提供することが可能となり、校内における学習情報のセンター的機能を果たすことができた。</p>		
4 28年度の目標(値)	研修会において、各学校における図書館教育について情報交換を行い、学校図書館の機能の向上を図る。		
5 28年度以降の取組	学校図書館の機能の一層の充実のため、研修会を実施して、学校図書館教育補助員の資質向上を図る。また、セカンドブック事業の推進に向け、積極的な活用を図る。		

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	英語指導助手配置事業		
予算額	18,700,000円	決算額	18,295,200円
1 事業概要			
小学校に3人、中学校に2人の英語指導助手を配置し、国際理解教育や外国語活動・英語教育の推進を図った。			
2 事業実績			
(1) 配置状況			
A指導助手：桶川小学校 116日 日出谷小学校 87日			
B指導助手：加納小学校 66日 川田谷小学校 61日 朝日小学校 75日			
C指導助手：桶川西小学校 105日 桶川東小学校 98日			
D指導助手：桶川東中学校 94日 桶川西中学校 95日			
E指導助手：桶川中学校 105日 加納中学校 85日			
(2) 活動状況			
ア 外国語活動や外国語、総合的な学習の時間等での指導補助のほか、給食、清掃活動等の時間を通して児童生徒と交流し、外国語や外国の文化に触れる機会を設定した。			
イ 小学校教員に対して、外国語活動の指導について研修を行った。			
ウ 中学校では、英語暗唱・弁論大会の指導等を行った。			
3 上記2に対する評価			
(1) 小学校の高学年においては、英語指導助手との授業等を通して、児童が英語を身近に感じ、外国語活動での理解が一層図られた。また、低・中学年においては、ゲーム、歌等の活動を通して、外国人や外国の文化に慣れ親しみ、国際理解教育を柱とする学習活動を充実することができた。			
(2) 授業を中心に英語指導助手と接することにより、児童生徒が外国人と自然に接することができるようになった。			
(3) 中学校では、生徒がより意欲的に学習に取り組める英語教材の効果や日常活動における交流の促進により、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする意欲や態度が育成された。また、桶川・伊奈地区中学校英語暗唱・弁論大会で、暗唱の部及び弁論の部の入賞者各5名のうち、それぞれ4名が本市の生徒であった。弁論の部1位となった本市の生徒は、県大会に進出した。			
4 28年度の目標(値)			
各小・中学校に英語指導に係る指導助手を配置し、生きた英語や外国文化・生活に触れる機会を提供し、英語によるコミュニケーション能力の向上等英語教育の推進を図る。			
5 28年度以降の取組			
(1) 外国語活動・外国語の授業を一層効果的に推進するため、授業等の状況を把握し、派遣業者と連携して、英語教育に係る指導助手の資質向上に努める。			
(2) 各学校における学習指導等を工夫し、英語教育に係る指導助手の活用の改善を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる								
施策	学校教育の充実（202）								
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）								
事業名	教育相談事業								
予算額	15,801,000円	決算額	15,704,730円						
1 事業概要									
<p>(1) さわやか相談員を各中学校に配置し、児童生徒・保護者の相談に応じ、様々な問題の解決に向け、学校・家庭・地域との連携を図った。</p> <p>(2) 桶川市教育センターにカウンセラー及び相談員を各2名配置し、教育相談を行った。また、指導員3名を配置し、適応指導教室「けやき教室」を運営した。</p> <p>(3) スクールカウンセラーを2週に1日、各中学校に配置し、児童生徒・保護者の支援・カウンセリング、教職員への助言等により、児童生徒が抱える問題の解決を図った。</p>									
2 事業実績									
<p>(1) さわやか相談員（8,001,600円） 来室相談件数：2,735件 電話相談件数：621件</p> <p>(2) 桶川市教育センター（適応指導教室「けやき教室」を含む）（7,703,130円） 開所日数：232日 相談件数：590件 けやき教室通級人数：小学生 1人、中学生 12人、合計 13人</p> <p>(3) スクールカウンセラーが関わった相談者数（述べ人数） 小学校 35件 中学校 650件</p>									
<p>〔関連事項. 市内小・中学校でのいじめの認知件数及び不登校児童生徒数〕</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 2px;">いじめの認知件数</td> <td style="padding: 2px;">小学校 8件</td> <td style="padding: 2px;">中学校 19件</td> </tr> <tr> <td style="padding: 2px;">不登校児童生徒数</td> <td style="padding: 2px;">小学校 12人</td> <td style="padding: 2px;">中学校 60人</td> </tr> </table>				いじめの認知件数	小学校 8件	中学校 19件	不登校児童生徒数	小学校 12人	中学校 60人
いじめの認知件数	小学校 8件	中学校 19件							
不登校児童生徒数	小学校 12人	中学校 60人							
3 上記2に対する評価									
<p>(1) さわやか相談員</p> <p>ア 在籍生徒が直接相談でき、学級担任や養護教諭等と連携して指導・支援を行った。</p> <p>イ 保護者に対して、身近な相談員として相談に応じることができ、いじめへの迅速な対応、不登校児童生徒への適切な対応に効果をあげた。</p> <p>(2) 桶川市教育センター（適応指導教室を含む）</p> <p>ア カウンセラー及び相談員が児童生徒の行動や発達等の課題について、保護者等からの相談に面接や電話で応じた。</p> <p>イ 不登校児童生徒に対して指導員が、学校への復帰のための支援を適切に行った。</p> <p>(3) スクールカウンセラー</p> <p>ア 不登校や発達障害が疑われる等、特別な教育的配慮を要する児童生徒に対して専門的な検査等を実施し、適切な指導・支援の在り方を保護者及び教員に助言し、一定の効果を上げた。</p>									
4 28年度の目標(値)									
児童生徒・保護者の教育相談に対応し、一人一人の状況に応じた適切な指導・支援を継続する。									
5 28年度以降の取組									
<p>(1) 教育センターに指導員を増員し、通室児童生徒の適応指導を充実させる。</p> <p>(2) 小・中学校との連携をさらに推進するとともに、教育センターでの相談活動、適応指導を充実させ、市内の教育相談体制の一層の充実を図る。</p>									

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる				
施策	学校教育の充実（202）				
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）				
事業名	中学生社会体験チャレンジ事業				
予算額	247,000円	決算額	246,000円		
1 事業概要					
生徒が将来をよりよく生きるために、望ましい職業観や公平な社会性への理解を深めるなど、進路指導・キャリア教育の充実を図るため、全中学校で生徒の職場体験を行った。					
2 事業実績					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 実施日	第1回：平成27年5月28日（木） 第2回：平成28年2月16日（火）				
イ 委員	桶川市商工会、桶川青年会議所、桶川ロータリークラブの代表者 桶川市PTA連合会長、各校PTA会長、各校（校長・事業担当者）				
ウ 内容	職場体験活動の目的の確認、依頼する事業所の確認、各校の情報交換				
(2) 各校における実績					
ア 体験期間	3日間、参加生徒数：653人				
イ 協力事業所数	延べ181事業所				
	学校名	実施学年	人数(人)	事業所数	交付金(円)
	桶川中	第1学年	192	48	72,000
	桶川東中	第2学年	165	48	64,000
	桶川西中	第2学年	183	48	65,000
	加納中	第2学年	113	37	45,000
3 上記2に対する評価					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の開催					
ア 市内中学校4校で情報交換を行うことで、よりよい事業の運営ができた。					
イ 桶川市商工会、桶川市青年会議所や各校PTA会長の参加により事業所への依頼を円滑に行うことができた。					
(2) 各校の取組					
ア 生徒は職場体験を通じて、「働くことに対する責任感」を学ぶことができた。					
イ 参加した生徒の保護者からは、地域に支えられたことへの感謝と、地域社会との連携した教育活動に対しての賛同を得た。					
4 28年度の目標(値)					
地域での社会体験や勤労体験を通して、望ましい職業観・勤労観や社会性・自立心を養い、豊かに生きる力をはぐくむ。					
5 28年度以降の取組					
(1) 中学生社会体験チャレンジ事業推進委員会の充実を図り、学校間の情報交換を深める。					
(2) 桶川市商工会、桶川市青年会議所等と連携を深め、市内全域及び近隣市を含めてさらに多くの新規受入れ事業所を確保する。					

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる			
施策	学校教育の充実（202）			
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）			
事業名	進路意識啓発事業（ふれあい講演会）			
予算額	40,000円	決算額	20,000円	
1 事業概要				
進路指導の一環として、生徒や保護者の進路意識を啓発するために「ふれあい講演会」を実施し、地域で活躍する職業人の講演を聞く機会を提供した。				
2 事業実績				
(1) 各校の実施内容				
学校名	講師	参加人数	実施日	内容
桶川中	社会保険労務士	605人	11月27日	働くこと、社会保障の仕組み等
桶川東中	シンガーソングライター	540人	7月9日	自由に生きるということ
桶川西中	調理師	549人	11月25日	人生の描き方
加納中	シンガーソングライター	388人	10月8日	夢に向かって
(2) 県の補助金により実施				
3 上記2に対する評価				
(1) 人生の先輩として社会で活躍する方の体験談を聞くことで、学校生活だけでは知ることのできない職業の苦勞ややりがい、仕事に対する考え方などに触れ、将来の進路や生き方を考えるよい機会とすることができた。				
(2) 社会の厳しい現実を聞くことによって、学校で学ぶことは将来の自分に大切であり、学校生活をより充実したものにしていこうとする意欲が高まった。				
(3) 保護者にも公開したことで、家庭での話題を共有することができた。				
4 28年度の目標(値)				
地域の人々との連携による講演会を通して、生徒・保護者の進路意識を啓発し、中学校の進路指導・キャリア教育の推進を図る。				
5 28年度以降の取組				
県の事業としては終了したため、本市独自の取組として継続していく。各校の講師の選定が円滑に行われ、より効果的な事業実施ができるよう支援していく。				

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	ことばの教室事業		
予算額	1,590,000円	決算額	1,590,000円

1 事業概要

ことばの発達に不安のある保護者や児童生徒に対して、専門的な指導を行った。

2 事業実績

開設日数 75日
 開設時間 午後1時～5時（4時間）
 通級児童数 28人
 小学生 26人
 中学生 2人

終了児童数 0人

(1) 児童生徒への言語指導

ア 「ことばやきこえ」の発達を支援するため、桶川西小学校内に桶川市ことばの教室を設置し、言語聴覚士による専門的な指導を行った。

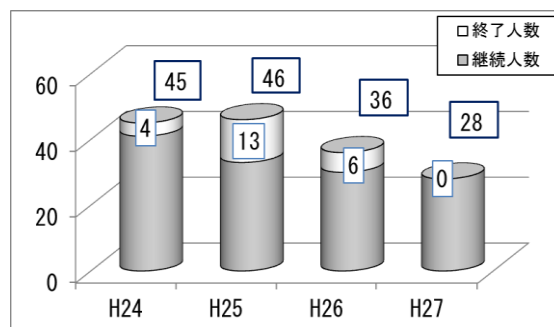
イ ことばを増やすための指導や正しい発音へと導く指導等、児童生徒一人一人の状態に応じた適切な個別指導を行った。

(2) 保護者の来所相談 10件

児童生徒の言語指導への理解を保護者と共有するための来所相談を行った。

(3) 言語指導に係る学校との連携

対象となる児童生徒の在籍する小・中学校における特別支援教育コーディネーター及び学級担任との連絡協議会を夏季休業中に実施し、指導の充実が図られるよう連携を強化した。



3 上記2に対する評価

(1) 児童生徒への言語指導

言語聴覚士による専門的な指導を受けることで、話すときのことばの数が増えたり、正しい発音ができたりとことばの発達が見られ、学習意欲の向上にもつながった。

(2) 保護者の来所相談

専門的立場から保護者が助言を受けることで、子供への理解が深まり、保護者と連携してより円滑な支援を行うことができた。

(3) 言語指導に係る学校との連携

連絡協議会を実施することにより、在籍校でのことばの指導の方法や児童の支援について、特別支援教育コーディネーター等在籍校の教員との共通理解を図ることができた。

4 28年度の目標(値)

ことばの教室への相談件数の増加が予想される。それに100%応じられるよう対応していく。

5 28年度以降の取組

ことばの教室への相談が年々増加していることから、児童生徒一人一人に対する相談・指導時間を十分確保するため、開設日数、開設時間等について検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	桶川市発達障害・情緒障害通級指導事業		
予算額	180,000 円	決算額	149,775 円

1 事業概要

通常の学級に在籍する発達障害や情緒障害がある児童に対し、必要な教育支援を行った。

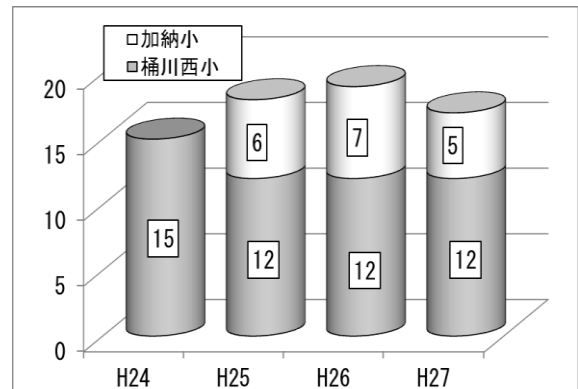
2 事業実績

教室通級状況（通級児童数）

平成 27 年度 17 人

（桶川西小教室 12 人、加納小教室 5 人）

桶川市発達障害・情緒障害通級指導教室「大空」を、桶川西小学校及び加納小学校内に開室し、学校生活や社会生活への適応に支援が必要とされる児童を対象として、担当教員による児童の状況に応じた個別指導及び少人数指導を行った。



3 上記2に対する評価

- (1) 個別指導及び少人数指導を行うことで、通常学級の授業に参加する力や通常学級に適応する力を向上させることができた。
- (2) 児童一人一人の状況に応じて、コミュニケーション能力の向上や、学習への苦手意識の改善等につなげることができた。
- (3) 在籍校教員（学級担任等）と通級教室担当教員が、通級児童への指導・支援において、保護者と共通理解ができ、児童の成長に効果が見られた。

4 28年度の目標(値)

通級児童に加えて、保護者からの相談対応の増加が予想される。在籍校と通級担当指導教諭、桶川市で連携を図りながら、保護者の相談へ可能な限り対応していく。

5 28年度以降の取組

今後さらに通級希望児童の増加が見込まれるため、通級指導教室担当教員と通級児童の在籍校教員の連携について継続的に検討していく。また、加納小学校及び桶川西小学校2つの教室の連携を図り、桶川市として効果的な体制を構築していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（2022）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校応援団推進事業		
予算額	900,000円	決算額	900,000円
1 事業概要			
学校が家庭や地域との連携を図り、学校運営を支援する体制づくりを推進した。			
2 事業実績			
小・中学校全校に学校応援団が設置され、各校の計画に応じて、学校支援活動が行われた。			
(1) 学校支援活動の内容			
ア 小学校7校（ボランティア数：826人）			
（ア）安心安全への支援：登下校の見守り活動やあいさつ運動			
（イ）学習活動への支援：ゲストティーチャーや本の読み聞かせ等の学習活動、図書 の整理等			
（ウ）環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪 定・除草等			
イ 中学校4校（ボランティア数：173人）			
（ア）安心安全への支援：登下校の見守りやあいさつ運動			
（イ）環境整備への支援：学校の環境整備のためのペンキ塗りや花壇・植木の剪 定・除草等			
(2) 学校応援団事務局の活動			
ア 学校応援団実行委員会 平成27年12月4日（金）に開催			
イ 学校応援団活動報告書の作成			
3 上記2に対する評価			
(1) 学校支援活動の内容			
ア 小・中学校全校に学校応援団が設置され、各校の実態に合わせて活動を行うこ とができた。			
イ 学校と保護者や地域のボランティアが協働することで、学校・家庭・地域が一 体となって児童生徒を育てていこうとする意識が高まってきた。			
(2) 学校応援団事務局の活動			
ア 学校応援団実行委員会において、学校応援団コーディネーター研修会の報告を 行い、コーディネーターの役割について協議することができた。			
イ 各校の取り組みをまとめた活動報告書を作成し、学校間の情報交換を行うこ とができた。			
4 28年度の目標(値)			
ボランティア数を小・中学校で合計1000名以上を目標とする。			
学校応援団実行委員会の参加者を、各学校のボランティアに加え、学校から1名以上 の職員の参加を呼び掛けていく。			
5 28年度以降の取組			
各校の学校応援団の活動が、学校応援団コーディネーターを中心に学校・家庭・地域 の連携した活動になるよう、学校応援団実行委員会を一層機能させていく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2021）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	3,000,000円	決算額	2,878,000円

1 事業概要

教職員の資質・能力の向上に向け、研修会の開催、学校訪問時の学習指導や学校課題研究への支援などを行った。

2 事業実績

(1) 教育委員会主催研修会（124,000円）

項 目	実施時期	内 容	参加対象者
桶川市教育講演会	5月12日	講演会「子どもの育ちを支える」	全教職員
道徳教育研修会	8月3日	自校の道徳の指導力の向上に向けて	道徳主任・道徳推進教師
人権教育担当者研修会	8月5日	人権意識の高揚（性同一性障害の理解と支援）	人権教育主任
管理職等人権教育研修会	2月23日	人権教育の現状と課題の認識と実践力の向上	校長・主幹教諭
生徒指導・教育相談 中級研修会	7月30,31日 8月5日	生徒指導・教育相談推進者として必要な 知識・技能の習得	希望教員
小学校英語活動研修	8月（各校）	英語活動の充実を図るための指導方法	小学校全教員
初任者研修	5,6,7,2月	教員として授業実践を通しての資質の向上	初任者教員
給食指導法研修会	8月5日	食育の充実に係る指導力向上	栄養教諭等
保健指導研修会	7月15日 12月18日 2月17日	心身の健やかな発達を促進するための指導の在り方	養護教諭等
体力向上推進研修会	7月3日 12月1日	体力づくり活動やその指導方法等の内容 の充実・改善	体育主任等
夏季学校経営・運営研修会	8月20日	学校経営・運営に係る諸問題についての協議及び今後の学校経営・運営の在り方	校長・教頭
臨時的任用教員研修会	7月6日 7日	臨時的任用教員に対する資質向上	臨時的任用教員

(2) 学校訪問（52,000円）

ア 定例訪問

南部教育事務所の協力を得て、各校を各2回訪問し、教育課程、学習指導、学校管理、その他学校運営に係る専門的事項について指導・助言を行った。

イ 各校の自主研修に伴う依頼訪問

各校の自主研修に伴い、各校2回から5回、指導主事が訪問したり、外部から講師を依頼したりして、自主研修に対する指導・助言を行った。

(3) 学校課題研究（2,710,000円）

小・中学校全校に交付金を交付し、それぞれの学校の研究を支援した。

交付金額：研究1年目140,000円 2年目230,000円 3年目（本発表）320,000円

また、本発表校には、研究発表会の開催に至るまで支援及び全体会での指導講評を行った。

学校名	研究領域	研修主題等	備考
桶川小	体育科	ともに認め合い生き生きと活動する児童の育成	10月29日本発表
加納小	国語科	学ぶ意欲を高め確かな学力を育む授業の創造	研究1年目
川田谷小	算数科	基礎・基本を身につけ 学び合う児童の育成	11月26日本発表
桶川西小	算数科	学ぶことの楽しさを味わわせ、基礎基本の充実を図る算数指導	研究1年目
桶川東小	算数科	授業でキラキラ輝くけやきっ子の育成	11月17日本発表
日出谷小	国語科	自分の思いや考えを豊かな言葉で表現できる児童の育成	研究2年目
朝日小	算数科	どの子にもわかる・できるを実感させる算数科学習	研究2年目
桶川中	学習指導	生きる力をはぐくむ授業の創造	11月5日本発表
桶川東中	学習指導	生徒一人一人が確かな学力を身につける学習活動の工夫	11月11日本発表
桶川西中	学習指導	確かな学力を育む指導方法の研究	研究1年目
加納中	学習指導	主体的に学び、確かな学力を育む指導方法の工夫	研究2年目

3 上記2に対する評価

(1) 教育委員会主催研修会

各校の教職員が、各研修会を通して、今後の教育に求められる専門的知識や児童生徒の指導に生かす指導方法について研修を実施することができた。

(2) 学校訪問

県教育局南部教育事務所からの支援を受け、学校訪問の際、各校の課題を踏まえて教育活動の改善を図るため、指導・助言を行うことができた。

(3) 学校課題研究

各校が自校の課題を解決するために、研究に取り組み、その成果を発信し、桶川市全体の教育活動の充実を図ることができた。

4 28年度の目標(値)

(1) 学校訪問を2回以上実施する。

(2) 学校課題研究を市内小・中学校全11校で取り組む。

5 28年度以降の取組

(1) 初任者研修や市教委主催の研修会の内容をさらに工夫し、本市教職員の指導力向上に向けた研修を実施する。

(2) 初任から5年経験者までの若手教員の育成状況を把握するとともに、指導力の向上を図るため、学校訪問での指導主事等によるきめ細かな指導・助言を行う。

(3) 各校の課題解決のために、研究の進捗状況に合わせて、計画的に指導・助言を行い、研究の成果が上がるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	主体的に行動できる能力を育てる環境教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
児童生徒が環境問題に気づき、環境を守ろうとする態度を育成するための環境教育を推進する。			
2 事業実績			
(1) 各校において、環境教育の全体計画や年間指導計画を適切に作成し、指導の充実を図った。			
(2) 地域の自然環境や社会環境を生かして、学校ファームをはじめとして桶川ロータリークラブ主催の「ジャンボスイカコンテスト」や「学校緑のグリーンカーテン運動」など、地域や外部と連携しての学校緑化活動の推奨を行った。また、各小学校では、身近な環境を考える機会として、市環境センターや浄水場等を利用した校外学習を実施した。			
(3) 県の事業「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、家庭と共同して二酸化炭素削減の意識を高めた。また、この結果は広報「おけがわ」に掲載し、市民の意識啓発も図っている。 ※人数は、延べ人数（保護者を含む）			
平成27年度(夏・冬)	小学校（7校）	中学校（4校）	合計
人数(※)	10,562人	3,461人	14,023人
削減量	14,984kg	4,311kg	19,295kg
3 上記2に対する評価			
(1) すべての学校で環境教育の全体計画・年間指導計画の作成がされており、児童生徒の実態を踏まえた指導が行われた。			
(2) 各教科、道徳、特別活動及び総合的な学習の時間と相互の関連を図る中で、児童生徒は身近な環境について問題意識をもって取り組むことができた。また、みどりの学校ファーム等の取組を通して、体験的な学習活動が実践された。			
(3) 学校を単位とした取組が多く、各学校で行われている実践について、その内容や方法、成果等を共通のものにする必要がある。また、各校の取組の工夫改善が必要であり、児童生徒の実態、地域の実態を考慮して、年間指導計画等の見直しや修正を図っていく必要がある。			
4 28年度の目標(値)			
「エコライフDAY」に市内全小・中学校で取り組み、家庭と共同してより一層、二酸化炭素削減の意識を高めていく。			
5 28年度以降の取組			
環境教育担当者の連携を図るため、各校における取組内容の情報交換を行う機会を設定する。また、学校応援団等、外部の教育力を活用し、環境教育の充実を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	知・徳・体の教育の充実（2021）		
事業名	福祉社会の実現を目指すボランティア・福祉教育事業		
予算額	0円	決算額	0円
1 事業概要			
(1) 発達段階や地域の実態に応じたボランティア・福祉体験活動の推進を図る。 (2) 施設体験活動を通して、教職員の社会福祉への関心と理解を深める。			
2 事業実績			
(1) 各校において、ボランティア・福祉教育の全体計画を策定し、教科及び道徳・特別活動・総合的な学習の時間等で実践した。 また、中学校社会体験チャレンジ事業において、市内社会福祉施設の協力を得て、ボランティア体験に参加した。（6施設（事業所）：41人参加） さらに、市春のふれあいフェスタ等へ市内中学生が自主的に参加し、ボランティア活動を行った。			
(2) 初任者研修及び5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設で実施した。 初任者研修教員：13人、5施設 5年経験者研修教員：16人、5施設			
	施設名	初任者研修教員	5年経験者研修教員
	桶川さといも作業所		3人
	ワークハウスさといも	3人	3人
	桶川市社会福祉協議会	2人	3人
	べに花の郷	3人	4人
	りんごの家	3人	3人
	べにばなテラス	2人	
3 上記2に対する評価			
(1) 各校において、車いすやアイマスク等の体験活動、赤い羽根等の募金活動やベルマーク収集活動、社会福祉施設等への訪問・職場体験を通して、児童生徒が発達段階に応じて、ボランティア活動・福祉体験に触れる機会を設定し、社会福祉への関心と理解を深めることができた。			
(2) ボランティアや福祉教育についての教員の理解を深めるため、初任者研修及び5年経験者研修の施設体験研修を、市内社会福祉施設の協力を得て実施した。教員の社会福祉への関心と理解を深めることができた。			
4 28年度の目標(値)			
5年経験者研修での施設体験研修を実施し、教員の資質向上を図る。			
5 28年度以降の取組			
(1) 各校での体験活動等を市内で情報共有し、発達段階に即したボランティア活動・福祉体験が充実するよう、全体計画の改善を働きかける。			
(2) 5年経験者研修での施設体験研修を実施し、教員の資質向上を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	小・中学校図書購入事業		
予 算 額	4,548,800 円	決 算 額	4,558,115 円

1 事業概要

児童・生徒に本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与える学校図書室の図書購入を行った。

2 事業実績

小・中学校全体で 4,547,000 円の予算を学校に配当し、小学校で 3,081,792 円、中学校で 1,476,323 円の図書を購入した。

＜平成 27 年度小・中学校図書室蔵書数等＞

	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	標準達成率 (%)		
					25 年度	26 年度	27 年度
小学校全体	69,720	1,894	1,491	71,981	98.7	100.9	103.2
中学校全体	49,360	1,023	1,177	50,222	98.7	100.9	101.7

＜平成 27 年度小・中学校別図書室蔵書数等＞

学 校 名	標準冊数	増加冊数	廃棄冊数	現有冊数	標準達成率 (%)
桶川小	11,560	224	400	13,367	115.6%
桶川西小	11,360	292	248	11,440	100.7%
加納小	8,360	294	200	8,136	97.3%
川田谷小	8,360	260	275	8,561	102.4%
桶川東小	11,360	322	125	10,589	93.2%
日出谷小	8,760	254	0	9,123	104.1%
朝日小	9,960	248	243	10,765	108.1%
桶川中	13,600	282	100	13,155	96.7%
桶川東中	13,600	290	579	12,522	92.1%
桶川西中	13,120	271	400	14,823	113.0%
加納中	9,040	180	98	9,722	107.5%

3 上記 2 に対する評価

各小・中学校とも「学校図書館図書標準」の達成を目標として取り組んだ結果、蔵書数を増やすとともに、標準達成率（平均）の 100%を超えることができた。

4 28 年度の目標(値)

市内小学校 2 校、中学校 2 校において、学校図書館の図書標準を 100%に近づける。

5 28 年度以降の取組

図書標準達成率は平均値では 100%に達しているが、各小・中学校で比較するとバラつきが見られる。児童生徒が読みたくなるような図書の購入と古くなった図書の修理や廃棄をしながら、引き続き学校図書館の図書標準 100%を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	就学援助事業		
予算額	35,635,000円（学務課） 696,000円（学校支援課）	決算額	34,373,053円（学務課） 65,244円（学校支援課）

1 事業概要 [学務課・学校支援課]

- (1) 児童・生徒の義務教育に対しての機会均等を図るため、経済的に困難である保護者に対し、就学費用の援助を行う。また、特別支援教育の普及・奨励と入級児童・生徒の保護者の経済的負担を軽減するため、特別支援教育就学奨励費を支援する。
- (2) 要保護、準要保護の認定がなされた世帯の児童生徒に対し、学校保健法で定められた疾病の医療費の援助を行う。

2 事業実績

(1) 平成27年度就学援助費執行状況 [学務課]

	要保護	準要保護	特別支援教育	学用品 (要・準要保護)	学校給食費 (準要保護)	特別支援教育 就学援助費
小学校	3人	246人	28人	5,624,162円	10,088,703円	1,740,837円
中学校	9人	153人	18人	8,109,420円	7,113,756円	1,696,175円

(2) 平成27年度医療費補助執行状況 [学校支援課]

	要保護	要保護 件数	準要保護	準要保護 件数	金額
小学校	1人	1件	0人	0件	10,170円
中学校	1人	1件	2人	5件	55,074円

3 上記2に対する評価 [学務課・学校支援課]

- (1) 経済的に就学が困難な保護者に対し援助を行った。認定にあたっては現行の基準に基づき、所得だけではなく家庭状況や学校長、担任の所見等を考慮し適正に支給することができた。
- (2) 児童保護者への案内配付と併せ、広報、市HP等に事業広報と申請促進を図ることができた。
- (3) 医療受給者に対して適正に医療費の援助を行うことができた。また、学校、医療機関などと密な連携をとり適正に事務処理を行うことができた。

4 28年度の目標(値)

援助の必要な保護者が申請できるように更に制度の周知を図る。

5 28年度以降の取組 [学務課・学校支援課]

- (1) 社会状況の変化に柔軟に対応した支給を行えるように予算の確保を行っていく。
- (2) 就学援助事業を周知し、申請促進を図る。
- (3) 認定にあたっては、十分精査をしていく。
- (4) 学校事務担当者の事務処理上の取扱いについて問題が生じないように、周知徹底を図るとともに、迅速かつ適正な事務処理を継続していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	学校評議員会の設置事業		
予算額	369,000円	決算額	355,100円
1 事業概要			
<p>学校、家庭、地域が連携協力しながら一体となって子供の健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、教育委員会が各小・中学校の学校評議員を委嘱した。</p>			
2 事業実績			
<p>学校評議員とは、子供の健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、校長の行う学校運営や学校の教育活動に関し意見を述べ、又は助言を行う者である。各学校では、学校評議員会を開催し、学校運営等について貴重な意見や助言が得られた。</p> <p>委員数：5名（11校）、計55名 （謝金 6,700円×53名＝355,100円）市の職員等を除く</p> <p>開催回数：3回（9校）、4回（1校）、5回（1校）</p> <p>主な内容：〈説明・見学〉「学校概要説明」「学校評議員制度の説明」 「授業・行事参観」「施設設備見学」「給食試食」等 〈意見交換〉「教育活動…少人数指導、アクティブラーニング等」 「児童生徒の状況…地域での様子」 「学力テストの結果について」 「安全について…登下校、食物アレルギー」 「いじめ防止について…ネットトラブル」等</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 第三者の立場から貴重な意見を得ることができ、非常に参考になる。</p> <p>(2) 次年度に向けた課題がより明確になる。改善のヒントをもらうこともある。</p> <p>(3) 本校の教育活動に対する高い評価や激励の言葉が職員の励みになり、自信につながる。</p> <p>(4) 本校の教育活動を見てもらうことで、情報発信の良い機会となっている。</p> <p>(5) 地域の情報を得ることのできる機会となっている。</p>			
4 28年度の目標(値)			
各学校評議員から適切な意見や助言をいただき、開かれた学校づくりを目指す。			
5 28年度以降の取組			
各校における学校評議員会の開催状況や内容、成果や課題を集約し、各校へ情報提供することで、より良い評議員会となるよう支援していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基 本 事 業	学校教育への支援の充実（2022）		
事 業 名	学校関係者評価委員会の設置事業		
予 算 額	132,000 円	決 算 額	68,000 円
1 事業概要			
<p>学校が行う自己評価の客観性及び透明性を高め、教育活動その他学校運営の改善をするために、教育委員会が学校関係者評価委員会委員を委嘱した。</p>			
2 事業実績			
<p>学校関係者評価委員会は、学校が行う自己評価の結果を評価することを通じて、学校の自己評価の客観性・透明性を高めるために組織されている。また、学校・家庭・地域が学校運営の現状と課題について共通理解を深め、相互の連携を促し、学校運営の改善を促進する役目も担っている。</p> <p>委員数：8名（7校）、7名（2校）、6名（2校）計82名 （謝金 4,000 円×17名=68,000 円） ※謝金対象者は学校評議員を兼務、学区内の異校種の職員を除く。</p> <p>活動回数：2回（2校）、3回（7校）、4回（1校）、5回（1校） 主な内容：学校の教育活動視察、学校自己評価の報告を受けての協議 学校評価結果報告の作成</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 客観的な評価が得られ、学校自己評価の妥当性・透明性が高まる。職員とは異なった視点からの助言が、学校運営の改善につながる。</p> <p>(2) 学校自己評価結果の説明と検証、次年度に向けた方策の検討により、PDCAサイクルによる学校マネジメントシステムが確立している。</p> <p>(3) 学校自己評価に対しておおむね高い評価を得ることができ、職員の自信ややりがいにつながっている。</p> <p>(4) 学校の説明責任として、学校評価の実施・結果の公表を行うことにより、保護者・地域住民からの理解が高まり、家庭・地域との連携が強化されている。</p>			
4 28年度の目標(値)			
<p>学校関係者評価委員会を適宜開催し、適正な評価がなされることにより学校運営の改善に生かす。</p>			
5 28年度以降の取組			
<p>(1) 学校の自己評価をさらに活性化し、評価結果の妥当性を関係者評価委員会で協議していく。</p> <p>(2) 各学校の学校評価の結果に応じて、他課と連携し学校に対する支援や環境整備等の改善措置を講じていく。</p> <p>(3) 各学校に対して学校だよりや報告書、学校のホームページを使っての学校評価の公表に係る工夫を働きかけ、家庭や地域住民に対する説明責任を果たし、一層の連携強化を図る。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の管理業務		
予算額	1,440,000円	決算額	1,096,000円

1 事業概要

桶川市立小・中学校教職員の事故防止、及び、市費対応に係る臨時的任用教職員の配置

2 事業実績

(1) 教職員事故発生件数

	件数（件）
体 罰	0
酒酔い運転及び酒気帯び運転での交通事故	0
わいせつ行為等（セクハラを含む）	0
その他・非違行為等	0

(2) 欠員補充に係る臨時的任用教職員の配置状況

	欠員補充者（人）	市費負担日数（日）	市費負担費用（円）
小 学 校	11	91	728,000
中 学 校	5	46	368,000
合 計	16	137	1,096,000

(3) 病休等に係る臨時的任用教職員の配置状況

	病休者数(人) ※8日以上	代替者数(人)	市費負担(日)	市費負担費用(円)
小 学 校	4	0	0	0
中 学 校	2	0	0	0
合 計	6	0	0	0

3 上記2に対する評価

- (1) 倫理確立委員会の充実等、服務規律を徹底することで教職員事故の防止に努めることができた。
- (2) 学校との情報共有や南部教育事務所、近隣市教委との連携により、学校運営に支障をきたすことなく、教職員を配置することができた。
- (3) 年度当初の欠員補充にかかる任用において、市費採用の日数が増加している。

4 28年度の目標(値)

教職員事故発生件数ゼロ（体罰、交通事故、わいせつ行為、非違行為等）を目指す。

5 28年度以降の取組

- (1) 事故防止に向けた研修を推進し、教職員の服務規律を徹底することで教職員事故の防止に努めていく。
- (2) 臨時的任用教職員の確保については、桶川市の広報誌やホームページへ募集記事を掲載したり、南部教育事務所や近隣市町教委と連携を図ったりしていく。
- (3) 各校の教職員の勤務状況（特に健康面）を把握し、負担軽減に向けた取組を行う。病休者等への対応を迅速に行い、学校運営を円滑に行うことができるよう支援する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	学校教育の充実（202）		
基本事業	学校教育への支援の充実（2022）		
事業名	教職員の資質・能力の向上推進事業		
予算額	50,000円	決算額	50,000円
1 事業概要			
教職員の資質・能力の向上を図るため、人事評価や各種研修会、教員免許更新確認を行った。			
2 事業実績			
(1) 教職員人事評価			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会			
ウ 臨時的任用教職員研修会			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講及び、免許更新確認			
3 上記2に対する評価			
(1) 教職員人事評価の実施			
評価者である校長・教頭が教職員に自己評価シートに基づき計画的に面談（当初・中間・最終）を行った。各小中学校では個々の教職員の資質能力の向上、学校の教育力の向上や組織の活性化のための具体的な取組ができた。			
(2) 研修会の開催			
ア 人事評価に係る評価者研修会では、講義、事例に基づく演習・協議を行い、管理職の公平な人事評価につながった。			
イ 夏季学校経営・運営研究協議会において講演会や協議会により管理職の学校経営力・運営力の向上を図ることができた。			
ウ 臨時的任用教員を対象に服務面、指導面の研修会を実施した。特別支援教育の視点を取り入れた講習を行い、教職員の視野を広げることができた。			
(3) 教員免許更新対象者の更新講習受講確認			
教員免許更新対象者の把握と更新講習の受講確認、修了確認申請に係る事務を確実に行うことができた。			
4 28年度の目標(値)			
人事評価においては評価スケジュールに基づいた運用を推進する。			
各種研修会においては各課題に対応した研修内容を企画、立案する。			
5 28年度以降の取組			
(1) 人事評価制度の周知と適切な運用			
(2) 各研修会のさらなる充実			
(3) 教員免許更新講習者の確実な更新確認			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる			
施 策	就学前教育の支援・充実（201）			
基 本 事 業	家庭の教育力の向上（2011）			
事 業 名	PTAリーダー研修会			
予 算 額	25,000 円	決 算 額	0 円	
1 事業概要				
<p>小・中学校PTA役員等を対象に、各小・中学校PTA活動の促進及びPTA家庭教育学級の企画運営方法や家庭教育のあり方等について研修を行った。</p>				
2 事業実績				
<p>開催日・会場：平成27年5月28日（木） 桶川東公民館 大会議室 テーマ：「薬物乱用（危険ドラッグ）防止講演会」 講 師：埼玉県保健医療部薬務課薬物対策担当主査 大林 香澄 氏 参加者：48人</p>				
		25年度	26年度	27年度
参加者数		43人	43人	48人
3 上記2に対する評価				
<p>(1) PTA活動の促進と役員の意欲づけについて 課題シートを配布し、参加者自身に考えさせる参加型の研修形式にしたことで参加者の課題意識が高まったものと思われる。</p> <p>(2) 参加者数について 目標値には達しなかったものの、昨年度よりも5名増加した。</p>				
4 28年度の目標(値)				
参加者数50人以上				
5 28年度以降の取組				
<p>(1) 本事業のねらいは「子供たちの健やかな成長を願い、健康で心豊かな家庭づくりを進めること」であることから、関係機関の情報等も活用し、今日的な親の悩みに応えられるような研修内容、講師の選定などを行う。</p> <p>(2) 参加者数については、昨年度より増加したものの、各学校への働きかけをさらに促進し目標値を達成していく。</p> <p>(3) 研修でアンケートを実施し、参加者の満足度を捉えるとともに、講演内容等のニーズを把握し、興味関心に応じたテーマを設定し、参加者の拡大を図る。</p>				

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	PTA家庭教育講演会		
予算額	399,000円	決算額	356,790円
1 事業概要			
小・中・高校のPTAが連携し家庭教育の充実を図るため、桶川市PTA連合会と高等学校PTAとの共催で、PTA家庭教育講演会を開催した。			
2 事業実績			
PTA家庭教育講演会『手をつなごうPTAべに花講演会』			
開催日・会場：平成28年1月16日（土） 桶川市民ホール			
講演会：「夢をかなえるために」ユウ サミイ氏（ミュージシャン）			
内容：講演のほか、桶川高校ダンス部による発表、桶川高校・桶川中学校吹奏楽部による演奏、桶川西高校の俳句展示			
対象者：小・中学校PTA会員、桶川高校・桶川西高校PTA会員、一般市民			
その他：東日本大震災募金実施			
参加者数：590人			
歳出：講師料 100,000円、使用料 256,790円			
		25年度	26年度
	参加者数	400人	400人
			590人
3 上記2に対する評価			
(1) 家庭教育力の向上と青少年の健全育成について			
より幅広い年齢層の子供たちを育てるという趣旨のもと、今年度も教育委員会、市PTA連合会、桶川高校・桶川西高校PTAとの共催で事業を行った。このことにより、各PTA間の連携が図られ、大変有意義な事業となった。また、幅広い保護者の意識の向上と教養を深めることができた。			
(2) 講演会の準備、運営、内容について			
合同会議の開催により、テーマ、講師の人選、予算の使途、役割分担等について活発な意見交換がなされた。講演会については、地域の人材を活用するという点を講師（ユウサミイ氏：ウサギ幼稚園—桶川高校出身）の選定の上で考慮した。また、今年度は、桶川高校ダンス部、桶川西高校生徒による俳句の展示を取り入れ、当日は多くの参加者があり、本年度も共催の意義は達せられた。			
4 28年度の目標(値)			
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人材活用と小・中・高校PTAによる合同会議の開催 ・前年度以上の参加者数 			
5 28年度以降の取組			
本事業は、家庭が子供の教育に対する責任を自覚し、本来果たすべき役割を見つめなおす機会をつくることを目的に開催されている。市内に、小・中・高等学校がある強みを生かし、合同で実施することによって家庭、地域の教育への関心を高められるよう内容を検討していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	就学前教育の支援・充実（201）		
基本事業	家庭の教育力の向上（2011）		
事業名	「親の学習」講座		
予算額	55,000円	決算額	55,000円

1 事業概要

より多くの保護者に、子育てやしつけ等の家庭教育のあり方を見つめ直してもらうよう「親の学習」講座を行った。

2 事業実績

- (1) 小学校では、埼玉県家庭教育アドバイザーの永原敏明氏を指導者として、「気軽に子育て」をテーマに、家庭教育に関する学習を行った。
- (2) 中学校では、埼玉県ネットアドバイザーの永原敏明氏を指導者として、「スマートフォン及びインターネットに潜む危険性」をテーマに講座を行った。
- (3) 参加状況は、下表のとおり（カッコ内は昨年度）。

小・中学校名	対象者数(人)	参加者数(人)	参加率(%)
桶川西小	139	135	97.1
加納小	57	57	100.0
川田谷小	47	41	87.2
桶川東小	136	136	100.0
日出谷小	76	76	100.0
朝日小	69	68	98.5
桶川小	88	85	96.5
小計	612(590)	598(575)	97.7(97.5)
桶川中	190	180	94.7
桶川東中	164	145	88.4
桶川西中	163	130	79.8
加納中	115	95	82.6
小計	632(690)	550(613)	87.0(88.8)

歳出：講師謝礼 55,000円

3 上記2に対する評価

- (1) 小学校では、各校に協力を要請し、児童が保護者から離れて健康診断を受けている時間に、家庭教育アドバイザーの講話を効果的に提供することができた。
- (2) 中学校では、4校すべてにおいて学校説明会の前に設定し、子供にスマホを「持たせない選択」か「持たせる覚悟を持つか」について、具体性を持たせた内容を提供できた。
- (3) 小・中学校の参加率は、昨年度をそれぞれ上回り、目標値を達成している。

4 28年度の目標(値)

参加率93%

5 28年度以降の取組

- ・実施時期について、小学校では就学時検診時、中学校では入学説明会前での講座開催という形が定着しており、多くの参加者が見込めることから、28年度以降も実施していく。
- ・今年度、「気軽に子育て」や「スマートフォン及びインターネットに潜む危険性」としてテーマを設定したが、今後も必要に応じてテーマの検討、見直しを図っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	生きる力を育む活動の充実（2031）		
事業名	成人式典		
予算額	507,000円	決算額	413,798円

1 事業概要

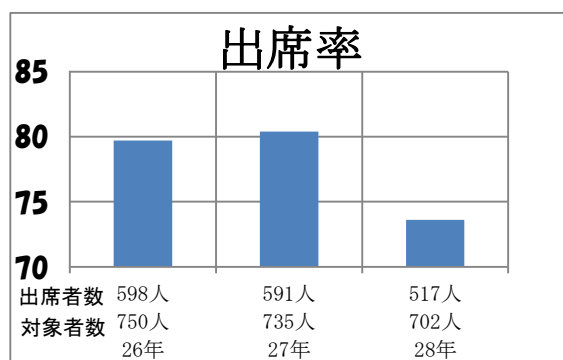
「成人の日」を成人になったことを自覚する記念の日とし、新成人の新しい門出とともに祝福するとともに、将来の幸福を祈念するために、成人式典を実行委員会方式にて実施した。

2 事業実績

開催日・会場：平成28年1月11日（月）成人の日 桶川市民ホール

テーマ：「輝～青春がとまらない」

開催内容：第1部 式典、第2部 アトラクション



【実行委員会】

実行委員は広報による公募や卒業中学校から推薦された新成人14人で構成され、成人式典の企画、案内状発送作業及び前日準備、当日の運営についても主体的に行った。

歳出：消耗品等需用費 182,508円、施設使用料 231,290円

3 上記2に対する評価

- (1) 実行委員会について、今年度は実行委員14名全員が推薦者であり、公募による実行委員がいなかった。しかしながら、各実行委員は実行委員長主導のもと、式典の企画、準備、当日の運営を主体的に行い、大きなトラブルなく式典を終えることができた。
- (2) 対象者数702人、出席者数517人、出席率は73.6%
- (3) 新成人式研究会主催の第16回「成人式大賞2016」（文部科学省後援）では優秀賞に選ばれ、平成21年から8年連続受賞となった。

4 28年度の目標(値)

出席率82%（第5次総合振興計画）

5 28年度以降の取組

- (1) 実行委員の応募を広報、ホームページだけでなく、駅の掲示板に掲示し、周知を図り、公募者が増えるように工夫する。
- (2) 新成人の参加率が増加するように、周知方法と案内状を実行委員と検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	放課後子供教室事業		
予算額	12,500,000円	決算額	12,276,125円
1 事業概要			
子供たちが、地域社会の中で心豊かで健やかに育まれる安全かつ安心な居場所づくりを目的に桶川市放課後子供教室を開室した。			
2 事業実績			
(1) 国が推進している「放課後子ども総合プラン」に基づき、5月から桶川東小学校及び日出谷小学校で、9月からは新たに桶川西小学校算数資料室・児童会室及び朝日小学校図工室または音楽室を実施場所として、放課後子供教室を実施した。			
(2) スタッフ（コーディネーター、教育活動推進員、安全管理員、協力員）及び運営委員会（学校長、PTA、自治会及び行政関係者、コーディネーター）を設置した（表中のカッコ内は26年度実績）。			
	参加児童数（人）	活動日数（日）	スタッフ人数
桶川東小学校	26【36】	125【138】	25人・6団体
日出谷小学校	32【37】	127【124】	28人・7団体
桶川西小学校	41	99	23人・5団体
朝日小学校	25	87	18人・1団体
(3) 事業方針については、以下のとおり。			
<ul style="list-style-type: none"> ・交流の場を設けることにより、地域住民及び異なる学年との交流を支援する。 ・体験の場を設けることにより、文化活動、体験活動、スポーツ活動等を支援する。 ・学びの場を設けることにより、自主的な学習を支援する。 			
主な歳出：報償費 7,816,400円、空調機借上 1,290,600円、備品購入費 1,875,784円			
3 上記2に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・桶川東及び日出谷小学校では、年間の活動を通じてスタッフと参加児童、参加児童同士、スタッフ同士の信頼関係を深めることができた。また、開室4年目を迎え、学校側・保護者側の理解も徐々に得ることができている。 ・桶川西及び朝日小学校は、6月頃から準備を進め、コーディネーターを始めとするスタッフの熱心な取り組みのおかげもあり、無事に9月開室を迎えた。 ・アンケートを実施したところ、子供たちのみならず保護者からもスタッフが企画した事業内容について高評価をいただいた。 			
4 28年度の目標(値)			
桶川小学校、加納小学校、川田谷小学校で開室し、全校でのスタッフの充実を図る。			
5 28年度以降の取組			
スタッフの人選・募集方法を検討するとともに、9月開室を目指す3校ではスタッフ募集や教室整備を要する。各学校のスタッフ・学校長・児童クラブとの調整を密に行う。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	青少年の健全な育成（203）		
基本事業	青少年育成活動の支援と推進（2032）		
事業名	青少年健全育成事業		
予算額	2,380,000円	決算額	2,262,628円
1 事業概要			
<p>青少年育成活動を推進するために、以下の3事業を行った。</p> <p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>(3) 青少年育成団体への支援</p>			
2 事業実績			
<p>(1) 青少年問題協議会の開催</p> <p>ア 第1回：平成27年7月6日（月） 内容：①桶川市青少年健全育成指針等について ②青少年の現状についての意見、情報交換</p> <p>イ 第2回：平成28年2月26日（金） 内容：①桶川市青少年健全育成に向けての取組み ②青少年の現状についての意見、情報交換 ③県内における青少年問題への取組についての意見、情報交換</p> <p>(2) 青少年健全育成市民会議の推進</p> <p>ア 総会・講演会の実施（5月24日、桶川東公民館で開催） 「子どもを守るために地域で今日からできること」をテーマに、講師に横矢真理氏を迎え、講演会を実施。参加者数89人（前年度79人）。</p> <p>イ 私たちの主張作文コンクール、家庭の日ポスターコンクールを実施</p> <p>ウ 市民大会の実施（11月21日、桶川東公民館で開催） 青少年育成埼玉県民会議より補助金を受けて、青少年育成功労賞の表彰、作文・ポスターコンクール入賞者の表彰及び講師に大林香澄氏を迎え、「薬物乱用防止について」をテーマとする講演会を行った。参加者数190人（前年度160人）。</p> <p>エ 市民会議広報「ひまわり」の発行（1月1日発行 全戸配布）</p> <p>オ 親子ふれあいウォークの実施 第1回【10/10】加納地区参加者：77人 第2回【10/24】川田谷地区参加者：105人</p> <p>カ おけがわ春のふれあいフェスタへの参画（5月16日、駅西口公園で開催）</p> <p>キ 子ども教室「あそびっこ」の実施（朝日小学校11回 参加者数合計243人）</p> <p>ク 巡回指導の実施 延べ168人（前年度175人）。</p> <p>(3) 青少年関係団体への支援 各青少年関係団体や事業に、補助金等の交付や公共施設の利用の支援を行った。</p>			

〔補助金等交付実績〕

件 名	金 額
桶川市青少年健全育成市民会議交付金	672,000 円
桶川市子ども会育成連絡協議会補助金	680,000 円
青少年相談員協議会補助金	154,000 円
おけがわ春のふれあいフェスタ実行委員会交付金	500,000 円

3 上記2に対する評価

- (1) 子供のスマートフォン、ゲームの利用、問題行動や不登校などについて意見・情報交換がされた。第2回協議会において埼玉県南部教育事務所からいじめ非行防止支援員の吉野文雄氏を招き、県内の青少年問題についてお話を頂いた。これらの審議を通じて、青少年健全育成の充実が図られた。
- (2) 市民大会については、学校を通じて積極的なPRを行い、参加者数は190人と前年度の参加人数を大きく上回った。巡回指導の実施については、目標値の200人を上回ることができなかったが、168人に参加いただいた。
- (3) 財政的な支援を行うことで、青少年健全育成の推進が図られている。また、補助金等も効果的かつ適正に執行されている。

4 28年度の目標(値)

- ・市民大会、巡回指導の参加者数が昨年度を上回る。

5 28年度以降の取組

- (1) 各委員から現状報告を行ってもらい、情報の共有化を図る。また、協議会で得られた情報を青少年行政に反映できるよう、更なる連携を深めていく。
- (2) 市民大会への参加者が目標値の200人となるよう、各種事業について、PRの充実を図るとともに、時代のニーズに即した事業展開を行う。
- (3) 子ども会加入者数は減少傾向にあるが青少年相談員委嘱者数は増加傾向にあり、近隣市町村と比べても非常に充実している。団体全体の人数や各事業への参加人数は多くは見込めないが、積極的に事業ができるよう財政支援を行い、青少年育成団体の活動を促進していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	生涯学習情報の提供		
予算額	30,000円	決算額	27,517円
1 事業概要			
生涯学習に係る情報を広く市民に知っていただくため、生涯学習関連の情報紙を発行するとともに、ホームページ上にも各種情報の掲載を行った。			
2 事業実績			
生涯学習情報の提供：一般市民及び児童生徒向けに以下の情報提供を行った。			
(1) 情報紙「生涯学習ガイド」の発行			
市内で開催される講座等の情報を掲載した情報紙「生涯学習ガイド」を年3回（4月225部、8月215部、12月230部）発行し、公民館等の公共施設に設置、市民の学習機会について周知を行った。また、同様の内容について、市ホームページへの掲載を行った。			
(2) 児童・生徒向け学習情報紙の発行			
夏休みに開催される、主に小・中学生を対象とした催し物を紹介する「今度は何をしようかな？」を7月に発行し、全児童・生徒に配布した。また、公共施設にも設置した。			
歳出：需用費 27,517円			
3 上記2に対する評価			
各課・施設の協力の下、幅広く情報を収集し、市民に対し情報提供を行うことができた。また、再配布の希望が何か所かあり、冊子を手にとっている市民がいることを実感することができた。			
4 28年度の目標(値)			
<ul style="list-style-type: none"> ・用紙の色を工夫するなど、見やすい・見つけやすい情報誌を作成する。 ・現状17施設の設置箇所に桶川市東部連絡所などを加え、20箇所を目指す。 			
5 28年度以降の取組			
生涯学習情報の提供については、今後も各課・施設と連携を図り、幅広く情報を収集し、内容の濃い情報誌を作成していく。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	職員出前講座		
予算額	0円	決算額	0円

1 事業概要

市民の学習環境の向上を図りつつ、市民と行政との交流を深めることを目的に、市職員が各部署の分掌事務に基づく学習メニューを用意し、市民の要請により講師を派遣して講座を開催した。

2 事業実績

実施回数：14回
 参加延人数：877人
 [実施内容]

	25年度	26年度	27年度
回数	16回	9回	14回
延人数	1,064人	686人	877人

	担当課	講座名	利用団体	参加人数
1	高齢介護課	介護予防教室	高齢者	16
2	リサイクル推進課	みんなでつくる循環型社会	中学校	173
3	産業観光課	「べに花って、な・あ・に？」	中学校	80
4	産業観光課	「べに花って、な・あ・に？」	小学校	173
5	生涯学習文化財課	桶川の歴史と民俗	中学校	173
6	高齢介護課	介護予防教室	高齢者	11
7	環境課	「緑のまちづくり」について	成人・高齢者	23
8	産業観光課	「べに花って、な・あ・に？」	幼児・小学生・成人	35
9	生涯学習文化財課	桶川の歴史と文化を知る講座	成人	15
10	高齢介護課	介護予防教室	高齢者	12
11	鴨川・日出谷保育所	特製メニュー「クリスマスイベント」	幼児・保護者	37
12	高齢介護課 健康増進課	聞いてみたい介護保険 オケちゃん健康体操	高齢者	44
13	自治文化課・産業観光課・道路河川課・生涯学習文化財課	特製メニュー	小学生	78
14	高齢介護課	聞いてみたい介護保険	高齢者	7

3 上記2に対する評価

講座メニューは31講座（前年度28講座）があり、そのうち上記のメニューが利用された。広報やホームページへの掲載、校長会等で出前講座の周知を進め、平成26年度実績に比べて利用回数は増加した。

また、自治会や学校によっては、毎年職員出前講座を活用している団体があり、リピーター率が増加している。

No.13のように、特製メニューで対応したところが好評であった。

4 28年度の目標(値)

昨年度の利用件数を上回る。

5 28年度以降の取組

- ・問い合わせ時の市民ニーズに応じて、メニューに掲載されている講座以外でも柔軟に対応し、講座数を伸ばしていく。また、他課に職員出前講座の趣旨の理解を深めてもらい、講座の内容を充実させる。
- ・講座の内容を充実させる。
- ・周知方法について、引き続き自治会への回覧や小・中学校でも活用が図られるよう校長会などを通じてPRに努める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	市民大学の開催		
予算額	222,000円	決算額	189,227円

1 事業概要

多様な学習機会を提供するため、児童及び成人を対象とする以下の事業を実施した。

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設
- (2) 「桶川市平成市民大学」の開設

2 事業実績

- (1) 「子ども大学あげお・いな・おけがわ」の開設（全5回）

官学連携事業として、聖学院大学、日本薬科大学、上尾市教育委員会、伊奈町教育委員会、桶川市教育委員会からなる「子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会」を組織し、違う学校・学年の子どもたちが、大学のキャンパスや企業などで学ぶ「子どものための大学」を実施した。

対象者：上尾市、伊奈町、桶川市在住の小学5～6年生

参加者：15/59人（桶川市）

回	開催日・会場	内 容	講師など
1	6/13【聖学院大学】	入学式・ハンドベルミニコンサート ミニ聖学院あ・い・おタウン 「子どもがつくる まちのしくみを知ろう！」	子ども文化ステーション 武藤定明代表 三島由佳代表
2	6/20【聖学院大学】	ミニ聖学院あ・い・おタウン 「子どもがつくるまちを体験しよう！」	同上
3	8/6【三井金属工業(株)基礎評価研究所】	研究所を探検！素材の秘密を調べよう	同所 研究員
4	9/12【日本薬科大学】	重曹の科学	野澤直美教授
5	10/17【日本薬科大学】	身近な植物で日用品を染めよう 発表会・修了式	糸数七重教授

- (2) 「桶川市平成市民大学」の開設（9回）

生涯学習の一環として、より豊かな教養を身につけ、自らの生きがいを充実していく場として、事業を実施した。

テーマ：「豊かな教養を身につけよう」

参加者数：82人（前年度92人）

参加延人数：617人（前年度775人）

回	開催日	内 容	講師など
1	8/27	開講式 講義「桶川市の市政について」	桶川市長 小野 克典氏
2	9/3	講義「高齢化社会で何を学ぶか？ 学びを如何に活用するか？」	埼玉県教育局生涯学習文化財課 下田 典生氏
3	9/24	講義「自然観察と発見」	立正大学元教授 佐竹 研一氏
4	10/8	講義「宇宙戦艦ヤマトをめぐる」 －冒険物語の元型を訪ねて－	立正大学名誉教授 沼 義昭氏
5	10/23	歴史散策「加納地区の文化財」	桶川市ガイドボランティアの会
6	11/5	「日光浴と健康」	日本薬科大学教授 新木 敏正氏
7	11/19	講義「元禄の時代－將軍綱吉と忠臣蔵－」	東洋大学名誉教授 大野 瑞男氏
8	12/10	講義「自家製お屠蘇で新年を迎えましょう」	日本薬科大学講師 糸数 七重氏
9	12/24	講義「桶川市の教育を語る」 閉講式	桶川市教育委員会教育長 前島 富雄氏

主な歳出：実行委員会負担金 50,000 円、平成市民大学講師等謝礼 130,000 円

3 上記2に対する評価

(1) 子ども大学あげお・いな・おけがわ

- ・各回事故等なく、安全に事業を進める事ができた。
- ・参加児童に対する総合アンケートにおいて、満足度に対して「つまらなかった」と回答をした児童は0人であった。
- ・保護者に対するアンケートから、家庭で自発的に学習の振り返りや、講義内容に触れる児童が多いことがわかった。

(2) 平成市民大学

幅広い分野の講座を実施するとともに、講師に大学教授などを招き、内容の向上に努めたため、受講生の理解を深めることができた。さらに、定員（50人）を大幅に上回る応募者に対応することで、より多くの方に学習機会の提供を行うことができた。

4 28年度の目標(値)

- ・参加者の満足度の維持、向上を目指す。(参考：平成27年度児童満足度アンケート結果とても満足…47人、すこし満足…3人、つまらなかった…0人)

5 28年度以降の取組

「子ども大学あげお・いな・おけがわ」は、29年度に桶川市が持ち回りで主管課となるので、独自の取り組みをプログラムに入れるため、検討を始める。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	文芸桶川発行		
予算額	498,000円	決算額	482,400円
1 事業概要			
文芸活動を通じて豊かな人間性を養い、市民文化の創造と地域文化の普及向上に資することを目的として「文芸桶川」を発行した。			
2 事業実績			
(1) 発行部数等			
<ul style="list-style-type: none"> ・発行部数：300部 ・無償配布部数：執筆者、市内公共施設、学校等：185部 ・有償頒布部数：49部（頒布価格：1冊800円 一般部門の応募料：400円） 			
(2) 編集委員会			
各団体から選ばれた計6人の委員による編集委員会を設置し、編集及び校正等を行った。（桶川市文化団体連合会文学会 2人、桶川市図書館実作協議会 1人、桶川市俳句連盟 1人、短歌関係団体 1人、桶川市教育研究会 1人）			
(3) 掲載作品分野および掲載作品数（掲載者数）			
一般部門の応募作品は全て掲載し、ジュニア部門は学校と編集委員会で選定した作品を掲載した。			
○一般部門の掲載作品数(掲載者数)			
小説2編(2名)、随筆9編(9名) 評論2編(2名)、詩6編(6名)、 短歌90首(18名)、俳句148句(28名)、川柳35句(7名)、連句1巻(1名)			
○ジュニア部門の掲載作品数(掲載者数)			
小説5編(5名)、童話1編(1名)、 紀行1編(1名)、詩1編(1名) 短歌7首(7名)、俳句8句(8名)			
○その他、挿絵等 11点(11名)			
歳出：印刷製本費 437,400円、編集委員謝礼 45,000円			
3 上記2に対する評価			
・掲載数は327点に上ったが、ジュニア部門の応募者数が前年度より微減となった。			
4 28年度の目標(値)			
・前年度の応募作品数を上回る。			
5 28年度以降の取組			
<ul style="list-style-type: none"> ・作品募集について、市広報や公共施設に応募用紙を設置し、前年度執筆者にも募集をする。ジュニア部門については、学校を通じて中学生から作品を募集する。 ・頒布について、市広報やホームページ、市内公共施設窓口に設置し、周知を行う。 ・冊子のデザイン等を他市町村の文芸誌を参考に改善できるように取り組む。 			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	パソコン講習とサポート事業		
予算額	1,759,000円	決算額	1,602,672円
1 事業概要			
<p>パソコン技術の向上を目的として、ボランティア団体である桶川ITネットとの協働事業として、市民を対象とするパソコン講座を行った。また、パソコンサポートセンターを開設し、市民からの疑問や相談に応じた。</p>			
2 事業実績			
(1) パソコン講習の実施状況は、下表のとおりである。			
講 座 名		受講者数（定員）	
初心者講座	（2コース）	34人（各回20人、計40人）	
ワード講座	（3コース）	38人（各回20人、計60人）	
エクセル講座	（3コース）	50人（各回20人、計60人）	
年賀状作成講座	（3コース）	50人（各回20人、計60人）	
合 計		172人	
(2) パソコンサポートセンターについては、パソコンの活用に関する疑問や相談に応じるため、毎週金曜日に東公民館3階パソコンルームにおいて開設した。全48回開催し、利用者数は483人であった（前年度48回、493人）。 主な歳出：パソコンリース料1,121,292円、講師等謝礼322,200円			
3 上記2に対する評価			
(1) 講座受講人数の合計人数が前年度より増加した。チラシの配布や、講師の方による広報活動による成果が出たと考える。また、年度途中でパソコンの稼働速度の低下に対して、リース業者にメンテナンスを依頼し、改善された。			
(2) パソコンサポートセンターの開設については、リニューアル効果と市内イベントでチラシを配布するなど、新規利用者を開拓できるよう努めた。			
4 28年度の目標(値)			
前年度以上の講座への参加者数を目標とする。			
5 28年度以降の取組			
(1) パソコン講習について			
<ul style="list-style-type: none"> ・受講者が減少している点について、需要の変化に応じた事業展開を目指す。 ・講習内容の工夫・改善及びその他講座内容を検討し、受講者数の増加を目指す。 ・桶川東公民館にチラシを設置するなど、PR方法の検討を行う。 			
(2) サポートセンターについては、引き続き、様々な機会をとらえPRに努める。 28年度から、協働事業として隔週で水曜日に開催していた視覚障害者サポート事業を金曜日開催のパソコンサポートセンターと同時開催にする。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	生涯学習推進体制の整備		
予算額	3,716,000円	決算額	3,496,020円

1 事業概要

生涯学習推進体制の整備のため、以下（1）～（3）の会議を開催し、市内の生涯学習・社会教育の現状と課題について意見をいただいた。また、（4）社会教育指導員を配置することで社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成に寄与した。

- （1）桶川市生涯学習推進会議の開催
- （2）社会教育委員会会議の開催
- （3）社会教育関係委員合同研修会の開催
- （4）社会教育指導員の設置

2 事業実績

- （1）桶川市生涯学習推進会議の開催

第1回 平成27年6月24日（月）

内 容：平成27年度の主な生涯学習推進事業について（計画）

第2回 平成27年12月7日（月）

内 容：平成27年度の主な生涯学習推進事業について

- （2）社会教育委員会会議の開催

第1回 平成27年5月26日（火）

内 容：①平成26・27年度生涯学習文化財課事業について
 ②平成26・27年度社会教育委員の活動について
 ③平成27年度社会教育関係補助金・交付金について
 ④「世代を通じた協働事業の在り方」について

第2回 平成27年8月28日（金）

内 容：①人権教育実践報告会参加報告
 ②「世代を通じた協働事業の在り方」について

第3回 平成27年11月10日（火）

内 容：①社会教育関連委員会委員の確認について
 ②「世代を通じた協働事業の在り方」について

- （3）社会教育関係委員合同研修会の開催

開催日：平成28年2月29日（月）

内 容：「第3次桶川市生涯学習推進基本構想・後期基本計画」についての素案検討

対 象：社会教育委員、公民館運営審議会委員、生涯学習推進会議委員

- （4）社会教育指導員の設置

社会教育の特定分野の指導、学習相談及び社会教育関係団体の育成のため、2

人に委嘱した。主に、桶川市PTA連合会の事務局、平成市民大学やふれあい学級の事業を担当した。

歳出：報酬及び報償費 3,485,000 円

3 上記2に対する評価

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

生涯学習について総合的に審議し、生涯学習の推進に寄与した。

(2) 社会教育委員会議の開催

各委員が所属団体の現状や課題等について意見交換を行ったことにより、会議の内容が深まり、ボランティア活動の推進に向けた意識を深めることができた。また、「世代を通じた協働事業の在り方」について取りまとめを行い、教育委員会に提言した。

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

上記3つの委員会が共通のテーマを基に研修に参加し、講師の話を聴くことにより併せて互いの課題や現状について情報交換を深めることができた。

(4) 社会教育指導員の設置

社会教育についての高い専門性にに基づき、PTA活動の支援や平成市民大学等、各種講座を開催した。

4 28年度の目標(値)

各会議、研修会の計画的な実施

5 28年度以降の取組

(1) 桶川市生涯学習推進会議の開催

生涯学習の推進について審議していく。

(2) 社会教育委員会議の開催

「社会教育の普及・振興」について審議していく。

(3) 社会教育関係委員合同研修会の開催

3委員会合同の研修会を実施し、情報交換を深めていく。

(4) 社会教育指導員の設置

引き続き社会教育について企画・立案をし、普及・振興を図っていく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	人材の育成と活用（2043）		
事業名	学習ボランティア推進事業		
予算額	28,000円	決算額	10,900円
1 事業概要			
学習ボランティアとして市民の学習活動を支援できる人材を「桶川み・ら・い塾一人財バンク」に登録し、活用を図った。			
2 事業実績			
<p>(1) 登録状況：登録者数 43 人（前年度 38 人）、登録団体数 11 団体（同 11 団体） ※芸術文化、スポーツ・レクリエーション、家庭生活・趣味、教育等一般、人文・社会科学、自然科学、市民生活・国際関係などの幅広い分野に亘る。</p> <p>(2) 平成27年度の利用状況は、中高年の筋肉トレーニング・脳トレーニング【一般】、スポーツ吹矢【一般】、ミュージックベル等コンサート指導【中学校】、自然づくり（竹細工）【中学校】、スポーツ吹矢【小学生・一般】、英語【一般】の計6件となった（前年度4件）。</p> <p>(3) 周知活動として、広報やホームページへ掲載するとともに、5月11日に、おけがわ春のふれあいフェスタと同時開催で「人財バンク実演展示会」を桶川市民ホール（ギャラリー、ホール）において実施した。参加団体は9団体と4名、来場者数は約200人。</p>			
3 上記2に対する評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・自発的に登録する人や、広報やホームページを見て登録したいと思って登録する人など、人財バンクへの登録者は近年増加傾向である。利用件数は少ない状態であるが、昨年度よりも利用件数が増えた。 ・実演展示会は、来場者数の変化をみるために、試験的に目的の違うおけがわ春のふれあいフェスタと同時開催にしてみたが、大きな変化はあまり見られなかった。参加者からも例年の夏休み期間の開催がよいとの声が寄せられた。 			
4 28年度の目標(値)			
昨年度の利用件数を上回る。			
5 28年度以降の取組			
<p>人財バンク利用件数を増加させるため、周知の徹底を図っていく。特に人財バンク実演展示会については、開催時期の調整や他の事業との同時開催を検討する。</p> <p>また、一般市民だけでなく、登録者・登録団体が実演展示会に参加し、登録者同士の交流が行えるように、呼びかけを行っていく。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	人権教育・啓発と平和の推進（205）		
基本事業	人権教育の推進（2051）		
事業名	人権教育の推進		
予算額	4,334,000円	決算額	3,994,923円

1 事業概要

桶川市人権教育基本方針の趣旨に基づき、社会教育、生涯学習の観点から市民の人権感覚の向上を目指し、人権教育の啓発と推進を行った。

2 事業実績

(1) 桶川市人権教育推進協議会

①協議会

第1回 開催日：平成27年6月3日（水）

内 容：平成26年度事業報告及び27年度事業計画 等

第2回 開催日：平成28年3月22日（火）

内 容：平成27年度事業報告及び28年度事業計画案 等

②研修会

- ・人権教育・啓発講演会

開催日：平成28年1月26日（火） 桶川東公民館

内容：外国人の人権に関わる講演会「桶川市に暮らす外国人とその人権」

講師：石井ナナエ（特定非営利活動法人ふじみ野国際交流センター理事長）

参加者数：89名（前年度63名）

- ・企業等対象人権問題研修会

開催日：平成27年7月24日（金） 桶川市地域福祉活動センター

内容：「企業における障がい者雇用の取組～就労は障がいを軽減する～」

講師：富士ソフト企画(株) 遠田千穂氏、槻田理氏

参加者数：33名（同23名）

(2) 桶川市立集会所事業（カッコ内は前年度）

①成人学級講座

回	内容および講師	桶川集会所	加納集会所	参加者
1	家庭の中の人権（DVD視聴）	5/1(金)		88人
2	子供の人権（講演）	7/10(金)	7/9(木)	54人
3	外国人の人権（講演）	8/28(金)	8/31(月)	97人
4	障がい者の人権（講演）	10/23(金)	10/22(木)	51人
5	女性の人権（DVD視聴）	11/6(金)		83人
6	同和問題（DVD視聴）	2/12(金)		88人
参 加 者 計		461人（429）		

②文化講座を次表のとおり実施した。

集会所	教室名	受講者数	参加延べ人数
加 納	書道教室	21 人	468 人(460)
	編み物教室	25 人	553 人(449)
桶 川	書道教室	19 人	410 人(352)
	デコパージュ教室	12 人	252 人(219)

③夏休み子ども教室については、人権アニメの視聴、折り紙教室、習字教室を実施し、延べ参加人数は54人（昨年度58人）であった。

④集会所文化講座作品展

日時・会場：平成27年12月5日(土) 桶川集会所

展示作品：書道、編物、デコパージュ作品84点（85点）

来場者数：84人（73人）

○集会所事業主要経費

項 目	経 費
文化講座講師謝礼等	811,300 円
集会所光熱水費	572,451 円
集会所管理委託	1,370,439 円
集会所清掃委託	489,996 円
合 計	3,244,186 円

3 上記2に対する評価

- (1) 桶川市人権教育推進協議会では上記のほか、人権標語の募集及び審査を行っている。昨年度の応募総数は5,709人と26年度(5,847人)より減少している(児童・生徒数の減少が原因)ものの、審査などを通じて人権・男女共同参画課や人権擁護委員等の関係機関とも連携しながら、より一層の人権意識の向上を推進している。このほか広報誌「ふれあい」第13号を発行、全戸配布した。
- (2) 桶川市立集会所事業は、社会教育関係団体の代表者など6人による桶川市立集会所運営委員会によって運営されている。講座参加者は増加傾向にあった。2館を合わせた集会所全体の延べ利用者は、昨年度16,237人と比較して今年度15,910人と若干減っているように見えるが、耐震工事中であった加納公民館の利用者が元に戻ったものと思われる(利用団体が33団体から30団体に減少)。

4 28年度の目標(値)

昨年度の利用件数を上回る。

5 28年度以降の取組

- ・桶川市人権教育推進協議会、集会所事業ともに事業内容の大幅な変更はないが、同和問題をはじめとする様々な人権課題の早期解決を目指し、市民の人権感覚の向上への推進役として両事業に関わる方々の意識を高めていく。
- ・企業等人権問題研修会については、今日的な課題について意欲化と実践化が図れる講師選定、企業への声掛け強化、実施時期の再検討を行い、参加企業の増加を目指す。また集会所文化講座は、参加者の意見を考慮しながら講座内容の見直しを図る。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財保存管理交付金及び指定文化財保存事業費補助金交付事業		
予算額	1,923,000円	決算額	1,826,937円

1 事業概要

市内に所在する個人所有の指定文化財の適切な保存を図るため、その管理者に対して当該文化財の管理又は維持に要する経費に対して「桶川市指定文化財保存管理交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。また、修繕等の経費に対して「桶川市文化財保存事業費補助金交付要綱」に基づき補助金を交付した。

2 事業実績

(1) 文化財の指定区分に従い、以下のとおり交付金を交付した。

国指定文化財 10,000円×1件＝10,000円
 県指定文化財 7,500円×5件＝37,500円
 市指定文化財 5,000円×25件＝125,000円
 合 計 172,500円

区 分	件数	種別	種類	名 称
国指定文化財	1	有形	彫刻	木造阿弥陀如来坐像（泉福寺）
県指定文化財	1	有形	建造物	桶川宿本陣遺構
	2	記念物	史跡	熊野神社古墳
	3	記念物	天然記念物	倉田の大カヤ（明星院）
	4	記念物	天然記念物	光照寺コウヤマキ
	5	旧跡	旧跡	梵語学者盛典の墓（知足院）
市指定文化財	1	有形	建造物	諏訪神社本殿
	2	有形	建造物	泉福寺山門並びに石造仁王像一棟二軀
	3	有形	建造物	矢部家住宅
	4	有形	工芸品	泉福寺の銅製釣灯籠
	5	有形	歴史資料	天満神社の木製の額(氷川天満神社)
	6	有形	古文書	旧小針領家村松川家文書
	7	有形	古文書	旧五町台村渋谷家文書
	8	有形	古文書	旧倉田村荒井家文書
	9	有形	古文書	旧倉田村明星院領星野家文書
	10	有形	歴史資料	紅花商人寄進の石燈籠二基
	11	民俗	有形民俗	稻荷神社の力石
	12	有形	歴史資料	川辺の板石塔婆
	13	民俗	有形民俗	天神道の道しるべ
	14	民俗	有形民俗	樋詰の道しるべ
	15	民俗	有形民俗	名号塔兼ねた道しるべ

16	民俗	有形民俗	小針領家のささら獅子舞用具一式
17	記念物	史跡	原山古墳群
18	記念物	史跡	原山古墳群
19	記念物	史跡	木戸跡（下）
20	記念物	史跡	木戸跡（上）
21	記念物	史跡	加納城址
22	記念物	天然記念物	シイガシ
23	記念物	天然記念物	多気比売神社の大シイ
24	記念物	天然記念物	ムクロジ
25	記念物	天然記念物	普門寺のしだれ桜

(2) 補助金交付要綱に従い、以下のとおり補助金を交付した。

[交付対象文化財]

区分	件数	種別	種類	名称
県指定文化財	3	有形	建造物	桶川宿本陣遺構

ア 下水道設置工事

総事業費 853,200 円、補助率 1/4（県費 1/2 補助）、補助金額 213,100 円

イ シロアリ駆除・屋根修理及び外壁等修理工事

総事業費 2,315,355 円、補助率 1/4（県費 1/2 補助）、補助金額 579,177 円

ウ 屋根銅板板金工事

総事業費 51,840 円、補助率 1/4（県費 1/2 補助）、補助金額 12,920 円

区分	件数	種別	種類	名称
市指定文化財	1	有形	建造物	矢部家住宅

ア 勝手場他住居棟外壁改修工事及び塗屋造り住居棟屋根瓦補修工事

総事業費 1,557,000 円、補助率 1/2、補助金額 778,500 円

区分	件数	種別	種類	名称
市指定文化財	1	記念物	天然記念物	シイガシ

ア 枯枝除去及び花芽除去

総事業費 87,480 円、補助率 1/2、補助金額 43,740 円

イ 支柱交換

総事業費 54,000 円、補助率 1/2、補助金額 27,000 円

(なお、26 年度は 1 件 165,350 円、25 年度は 0 件)

3 上記 2 に対する評価

(1) 交付事業を通して文化財保護と保存についての意識啓発を図るとともに、所有者の協力を得て、指定文化財を適切に管理することができた。また、交付金についても、全 31 件の指定文化財に対して交付することができた。なお、新たに 1 件（旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物 5 棟）を、市指定文化財に指定したが、所有者が桶川市であるため、交付対象とはしない。

(2) 補助金交付事業により貴重な文化財の補修を行うことで、今後の文化財の保存と継承について寄与することができた。

4 28年度の目標(値)

市指定文化財「原山古墳群」については、維持及び管理の対象となる面積が広く、その上、所有者（2人）の高齢化により管理が困難となってきたため、所有者と協議した結果、桶川市文化財保護条例に基づき、教育委員会が平成28年度から管理団体となる協定を所有者2人と締結した。それに伴い「原山古墳群」が桶川市指定文化財保存管理交付金の対象外となったことで、「指定文化財保存管理交付金」の交付対象31件が2件減り29件となったが、その全29件に交付を行う。

また、「指定文化財保存事業費補助金」については、所有者からの申請だけでなく、職員が定期的に文化財の現状確認を行うことなどで、所有者との連携を深め、文化財の健全な保存につなげていく。

5 28年度以降の取組

(1) 平成28年度以降も、現在指定されている文化財への交付金を継続して交付する。

また、新たに文化財が指定されるごとに対応していく。

(2) 平成28年度以降も、所有者と協力しながら、必要に応じて対応していく。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	民俗芸能保存事業交付金交付事業		
予算額	570,000円	決算額	570,000円

1 事業概要

伝統的な民俗芸能の保存に努める伝承団体に対して、その保存伝承及び後継者育成に要する経費に充てるため、「桶川市民俗芸能保存事業交付金交付要綱」に基づき交付金を交付した。

2 事業実績

交付金額 30,000円×19団体=570,000円

[交付対象民俗芸能及び伝承団体]

No	芸能の名称	団体の名称
1	岡村の囃子	岡村囃子連
2	岡村の万作	岡村万作保存会
3	加納の餅つき踊り	加納餅つき踊り保存会
4	上日出谷の囃子	上日出谷青年会
5	倉田の囃子	桶川市倉田祭囃子保存会
6	桶川市子どもばやし	桶川市本街子ども囃子保存会
7	小針領家ささら獅子舞	小針領家獅子舞保存会
8	下日出谷の囃子	下日出谷囃子連
9	下日出谷の餅つき踊り	下日出谷餅搗踊り保存会
10	下日出谷の万作	下日出谷万作踊り保存会
11	諏訪の万作	諏訪万作保存会
12	前領家のささら獅子舞	前領家ささら獅子舞保存会
13	松原のささら獅子舞	松原ささら獅子舞保存会
14	松原の真言	松原真言保存会
15	松原の万作	松原万作保存会
16	三田原のささら獅子舞	三田原ささら獅子舞保存会
17	三田原の万作	三田原万作連
18	夫婦獅子舞・囃子	武州桶川宿本街保存会

3 上記2に対する評価

交付金を通して、民俗芸能団体の活動に対する支援や後継者育成等に寄与することができた。また、各地域の祭礼等に参加することで、各民俗芸能団体（三田原のささら獅子舞、前領家のささら獅子舞、松原のささら獅子舞、下日出谷の囃子、倉田の囃子、川田谷・下日出谷の万作、小針領家のささら獅子舞）の活動記録を取ると同時に、実際に活動されている方の意見なども聞くことができた。

4 28年度の目標(値)

今年度についても、地域の祭礼等に積極的に参加することで、民俗芸能団体の活動記録を取り、また各団体の抱える問題点などを伺う機会とする。さらに、民俗芸能団体が活動できる場を提供するなど、活動の幅を広げる支援を行っていく。

5 28年度以降の取組

平成28年度についても、民俗芸能に関する情報を収集していき、交付金の交付を始め、広く支援活動を行う。また、活動の継続が難しくなっている団体や活動を再開した団体があれば、随時対応をしていきたい。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	後谷遺跡出土品保存処理事業		
予算額	4,858,000円	決算額	4,590,000円

1 事業概要

国指定重要文化財の後谷遺跡出土品について、適切な保存管理・活用を行い、将来へ引き継いでいくことを目的に必要な保存修理を実施した。

2 事業実績

(1) 保存修理は、漆製品、木製品、土製品等の出土品のうち、脆弱な物や修復が必要な物に対して行う。平成27年度に関しては、木器・木製品13点（弓、石斧柄）をその対象とした。また、業務委託先に訪問して、文化庁職員の立会いのもと、着実に作業が行われているかの確認を行った。

(2) 良好な保存状態を確保するため、保存処理した13点を保存する専用の保存箱を作製した。

No.	長 (cm)	径 (cm)	遺存度		品質形状等
1	(25.40)	1.60	30	%	樹種不明（イヌガヤか）、本管側残欠、弓筈刻み有り、PG処理
2	(24.60)	1.40	30	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈刻み有り、PG処理
3	(33.40)	1.20	70	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
4	(35.30)	1.60	60	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈彫刻有り、PG処理
5	(34.20)	1.60	50	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈彫刻有り、2片接合、PG処理
6	(38.70)	1.80	50	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈刻み有り、漆塗りか、PG処理
7	(50.00)	1.20	60	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、弓筈刻み有り、PG処理
8	(47.20)	1.60	60	%	樹種不明（イヌガヤか）、末管残欠、未成品か、PG処理
9	(55.40)	2.70	50	%	イヌガヤ、残欠、面取り有り、弓幹に刻み有り、未成品、PG処理
10	108.50	28.60	100	%	樹種不明（イヌガヤか）、着部・柄部共はつり痕有り、未成品、PG処理
11	115.50	46.70	100	%	樹種不明（イヌガヤか）、着部・柄部共はつり痕有り、未成品、PG処理
12	138.50	49.00	100	%	樹種不明（イヌガヤか）、着部はつり痕有り、未成品、PG処理
13	105.00	35.50	100	%	樹種不明（イヌガヤか）、着部はつり面摩滅、未成品、PG処理

3 上記2に対する評価

- (1) 木器・木製品13点について、保存修理及び保存箱の作製を実施することができた。保存修理を行うことで劣化の進行や損傷を防ぎ、重要文化財の適切な保存管理と継承ができるようになった。
- (2) 保存修理により、良好な状態での公開や活用を増やすことにつながり、歴史民俗資料館の常設展示にて公開を行った。さらに昨年10月には、山梨県立考古博物館で開催された特別展「縄文の美」においても出展された。

4 28年度の目標(値)

例年通り、文化庁と協力して保存修理を滞りなく行う。また、修理が済んだ出土品については、可能な限り歴史民俗資料館などの展示や市外の博物館などに貸し出すことにより、その活用及び周知を図る。

5 28年度以降の取組

- (1) 平成24年度から5ヵ年計画で保存修理を予定していたが、再度、文化庁と見直しを図り、7ヵ年計画で280点の出土品に保存修理を施すものとした。これまでに漆製品13点、土偶1点、木器・木製品52点の計66点が終了している。平成28年度については木器・木製品(耳飾り)186点の保存箱作製、また、その内の40点については保存修理を実施する。
- (2) 保存修理の終了したものについては、歴史民俗資料館に収蔵し、特別展示等の一般公開の機会を創出する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	文化・芸術の振興・保存・継承（206）		
基本事業	文化財の保存と継承（2064）		
事業名	指定文化財調査事業		
予算額	14,000円	決算額	0円
1 事業概要			
<p>新たな文化財指定の可否を行なうため、指定文化財候補の調査を実施し、また指定について審議を行った。</p>			
2 事業実績			
<p>(1) 川田谷の「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物」について、文化財保護審議会委員とともに、現地を訪問して建物の状況調査を実施した。</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 調査を実施することにより、文化財に関する貴重な情報を得ることができた。 (2) 文化財指定されることで、貴重な文化財を保護し、未来に伝えていくことに大きく貢献することができた。</p>			
4 28年度の目標(値)			
<p>文化財保護審議会委員の協力のもと、指定文化財候補の調査及び指定への検討を、年1～2件程度行う。今年度は、昭和初期に和洋折衷の様式を取り入れて建設された伊藤医院を対象とする。その文化財的価値は高いため、文化財保護審議会委員と協力しながら、将来の文化財指定に向けて調査を行う。</p>			
5 28年度以降の取組			
<p>(1) 市内所在または市で所有する未指定の文化財について、随時調査を実施していく。 (2) 無住のため、保存環境が危惧される三仏堂の観音菩薩立像と文書資料について、その調査を行う。また、歴史民俗資料館に保管されている地租改正地引絵図を含め、調査済の文化財についても、その指定を検討する。</p>			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基 本 事 業	人材の育成と活用（2043）		
事 業 名	スポーツ指導者育成事業		
予 算 額	2,913,000 円	決 算 額	2,512,100 円
1 事業概要			
市民の健康増進に寄与する、スポーツ指導者の育成支援を行った			
2 事業実績			
(1) スポーツ推進委員やスポーツ少年団、体育協会に情報提供を行い、その活動を支援した。＜報酬：2,149,500 円、費用弁償：362,600 円＞			
(2) スポーツ推進委員及び体育協会加盟団体、スポーツ少年団の指導者、学校施設開放利用団体を対象に「普通救命講習」を実施した。(受講者：103人)			
3 上記2に対する評価			
(1) 各種研修会に多くのスポーツ指導者が積極的に参加した。特にスポーツ少年団は認定指導員養成講習会へ積極的に参加し、新たに5人が指導者となった。			
(2) 各団体において「普通救命講習」を実施し、AEDの取り扱いや応急手当について知識を深めたことにより、指導者の資質の向上が図れた。			
4 28年度の目標(値)			
認定指導員養成講習会受講者数 10名 普通救命講習受講者数 110名			
5 28年度以降の取組			
(1) スポーツ指導者の育成や支援を継続していく。			
(2) 普通救命講習をスポーツ推進委員、体育協会加盟団体及びスポーツ少年団、学校体育施設開放利用団体に継続的に実施する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	活動団体支援の充実（2044）		
事業名	スポーツ団体への支援事業		
予算額	5,040,000円	決算額	5,008,664円

1 事業概要

生涯スポーツの普及及び更なる推進を図るため、各種団体に対し支援を行った。

2 事業実績

(1) スポーツ団体等の支援・育成のため、以下のとおり補助金を交付した。

件名	金額
桶川市体育協会補助金	1,600,000円
桶川市スポーツ少年団補助金	560,000円
桶川市レクリエーション協会補助金	240,000円
桶川市スポーツ推進委員連絡協議会補助金	240,000円

(2) スポーツの振興を図るためのイベントを実行委員会形式で実施した。

件名	金額
地区別体育祭運営交付金	2,368,664円
スポーツフェスティバル交付金	400,000円
おけがわ駅伝競走大会交付金	400,000円

(3) スポーツ・レクリエーション団体会員数の推移

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
会員数	9,668人	10,041人	8,855人

3 上記2に対する評価

各スポーツ・レクリエーション関係団体に補助金を交付することなどにより、活動を支援し、生涯スポーツの普及・促進に寄与することができた。

- (1) 桶川市体育協会、桶川市スポーツ少年団及び桶川市レクリエーション協会などの団体の協力により、子供から大人までの幅広い世代の生涯スポーツの普及・推進を図ることができた。また、スポーツ推進委員は自事業のほかにも様々な行事、事業で活動を行い、桶川市のスポーツ・レクリエーションの振興に貢献した。
- (2) 8年目を迎えた地区別体育祭は、各地区に対して助成した結果、各地区実行委員会が中心となって地域の特色を生かした体育祭が開催された。
- (3) 各種イベントを実施することにより、スポーツ・レクリエーションの普及、推進に資するとともに、スポーツ少年団などの関係団体の活動を支援した。

4 28年度の目標(値)

スポーツ・レクリエーション団体会員数 13,000人

5 28年度以降の取組

各種活動団体に対する支援並びにイベントを通じて、生涯スポーツの普及・推進を図り、スポーツ・レクリエーション団体会員数の増加及び活動の充実を目指す。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる											
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）											
基本事業	施設の充実（2045）											
事業名	スポーツ施設維持管理事業											
予算額	88,176,000円	決算額	88,176,000円									
1 事業概要												
スポーツ関連施設の適切な維持管理を行い、生涯スポーツの普及、推進を図った。												
2 事業実績												
(1) 体育施設の管理												
<p><総合運動場整備工事：12,312,000円、施設管理委託72,212,000円ほか></p> <p>ア 平成27年9月7日に発生した台風18号により総合運動場が冠水し、グラウンドに汚泥が堆積した。10月には応急修繕を実施したが（1,242,000円）、より良好な状態まで回復させるため、大規模な改修を実施した。</p> <p>イ サン・アリーナ、舎人スポーツ・パーク、新小針領家グラウンド、総合運動場の体育施設について、その管理、受付業務、利用料金収納業務等を指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社に委託した。また、体育施設の維持改善に努めた。</p>												
(2) 学校体育施設開放事業<AED借上料：264,600円、夜間照明維持管理395,372円ほか>												
すべての小・中学校において、学校体育施設開放事業として、施設が開放されており市民のスポーツ活動の拠点として利用されている。												
例年に引き続き、施設の維持管理に努めており、施設の利用状況も次のとおりであった。												
<登録状況>												
<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>団体数</th> <th>利用人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小中学校施設利用団体</td> <td>117団体</td> <td>2,774人</td> </tr> <tr> <td>夜間照明施設利用団体</td> <td>9団体</td> <td>245人</td> </tr> </tbody> </table>				区分	団体数	利用人数	小中学校施設利用団体	117団体	2,774人	夜間照明施設利用団体	9団体	245人
区分	団体数	利用人数										
小中学校施設利用団体	117団体	2,774人										
夜間照明施設利用団体	9団体	245人										
3 上記2に対する評価												
総合運動場の大規模改修を実施し、利用環境の改善を図ることができたほか、既存の施設については、指定管理者である（公財）桶川市施設管理公社による備品の更新や必要に応じた補修及び点検等により、良好な維持管理をすることができた。												
4 28年度の目標(値)												
各運動施設の利用環境を良好な状態に維持する。												
5 28年度以降の取組												
(1) 既存の施設について、備品の更新、施設の補修、点検等を行う。												
(2) 新総合グラウンドについては、公募型プロポーザル方式による業務委託を実施し、将来展開の構想を策定する。												

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる														
施策	就学前教育の支援・充実（201）														
基本事業	家庭・地域の教育力の向上														
事業名	幼児・家庭教育セミナー事業														
予算額	246,600円	決算額	169,910円												
1 事業概要															
<p>幼児・小学生をもつ親を対象に「幼児教育」「家庭教育」について学び、活かすことができる講座を全8回開催した。</p>															
2 事業実績															
<p>主な講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストレッチとヨガでリフレッシュ ・子供の絵に見る色彩心理 ・社会の宝を輝く未来へ <p>参加者の平均年齢 39歳</p> <p>「学習したことを家庭のために活かした」、「自分も学ぶことで成長できた」、また、「子どもを預かってくれるので安心してセミナーに参加することができた」などの声を参加者から得ることができた。</p>															
<div style="text-align: center;"> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <caption>幼児・家庭教育セミナー参加者数</caption> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>参加者数</th> <th>回数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>25年度</td> <td>214</td> <td>(8回)</td> </tr> <tr> <td>26年度</td> <td>172</td> <td>(8回)</td> </tr> <tr> <td>27年度</td> <td>141</td> <td>(8回)</td> </tr> </tbody> </table> </div>				年度	参加者数	回数	25年度	214	(8回)	26年度	172	(8回)	27年度	141	(8回)
年度	参加者数	回数													
25年度	214	(8回)													
26年度	172	(8回)													
27年度	141	(8回)													
3 上記2に対する評価															
<p>平成25年度をピークに参加者は減っており、平成27年度も目標値の200人に到達することは叶わなかった。</p>															
4 28年度の目標(値)															
<p>セミナー参加者の声にこれまで以上に耳を傾けながら、昨年度よりも参加者の増加を図りたい。</p>															
5 28年度以降の取組															
<p>子育て世代のニーズに応えられるようなセミナーのあり方について調査・研究をし、次年度以降のセミナーの企画立案をする際に活かしていきたい。</p>															

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	生涯にわたる学びとスポーツの支援		
事業名	講座開催事業		
予算額	1,245,000円	決算額	1,269,000円

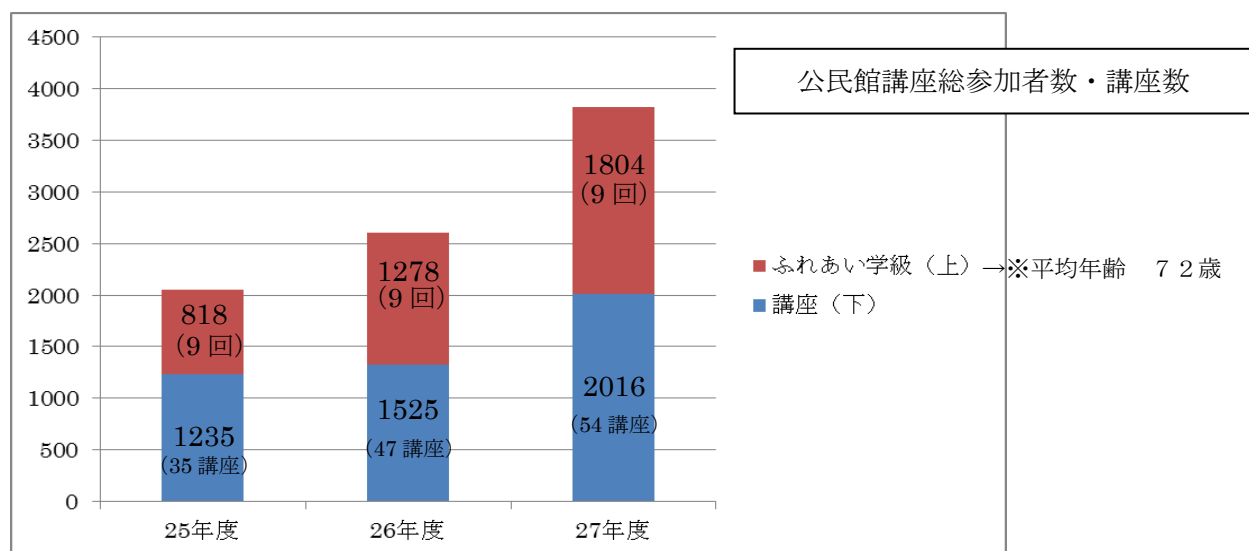
1 事業概要

学習意欲のある市民に対して、時代に即したより質の高い講座を提供する。

2 事業実績

(1) 成果

世代間交流、高齢者、子育て支援などに配慮した講座を4館で合計55講座開催した。



3 上記2に対する評価

「第5次総合振興計画—前期基本計画」で掲げた目標値45講座は達成しているが、公民館利用者の内訳で見ると、主催事業（講座等）の割合は全体のうちの5%にか過ぎない状況である。

4 28年度の目標(値)

「第5次総合振興計画—後期基本計画」で掲げた目標値55講座の上乗せを図る。

5 28年度以降の取組

平成24年6月「公民館のあり方について」でこれからの公民館についての基本的な方針がまとめられており、この基本方針の実現に向けて講座の開催についても検討を行い、主催事業等の増大を図る。

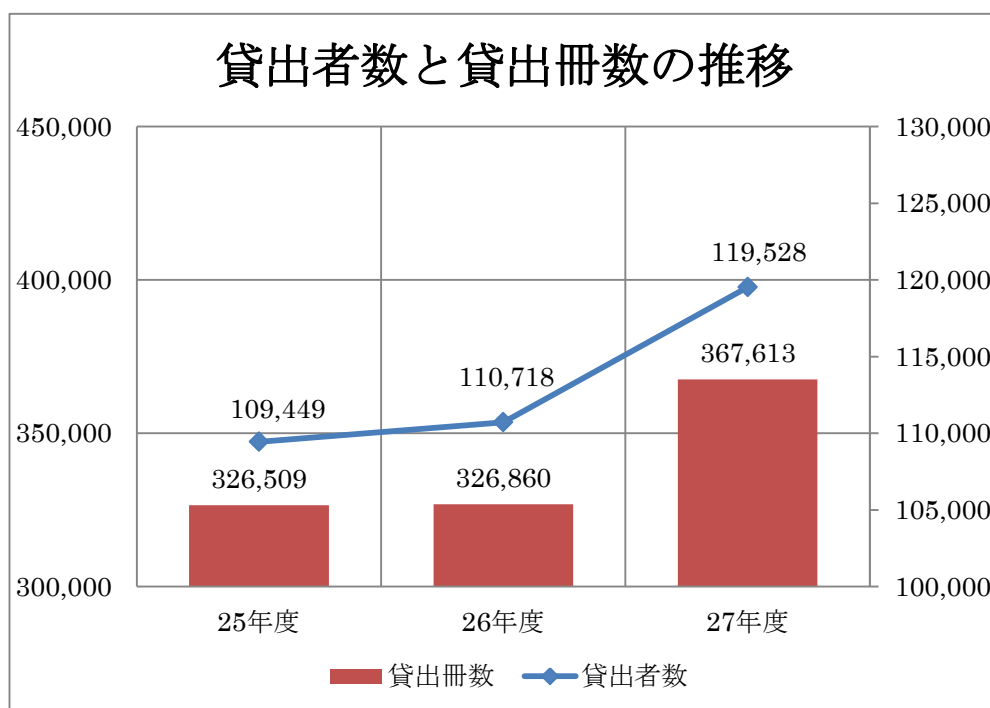
施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	生涯にわたる学びとスポーツの支援		
事業名	加納公民館エレベーターの設置事業		
予算額	3,500,000円	決算額	3,308,040円
1 事業概要			
平成26年12月に耐震補強工事が終了し、1月に新たに開館した加納公民館のさらなる利用者の利便性を向上させる目的で、エレベーター設置のための設計を実施した。			
2 事業実績			
平成29年3月のエレベーター設置工事開始に向けての設計及び関係課との調整等が終了した。			
3 上記2に対する評価			
構造面、コスト面、利便性、安全性を十分に配慮した設計等を完了することができた。			
4 28年度の目標(値)			
平成29年9月に設置工事が完了予定。			
5 28年度以降の取組			
平成29年3月末日からエレベーターの設置工事を開始し、8月末日までにすべての工事を完了する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	管理運営経費		
予算額	40,764,000円	決算額	39,445,442円

1 事業概要

図書館の大きな使命である、市民の知的要求に的確に応えるため、「知の交流拠点」、「図書館と書店を融合した新しい文化交流施設」としての駅西口図書館に、中央図書館機能を導入し、リニューアルオープンさせた。

2 事業実績



3 上記2に対する評価

(1) 10月1日駅西口図書館がリニューアルオープンしたことに伴い、指定管理者制度の導入、自動貸出機、図書消毒機など新しい機能の導入により、貸出者数、貸出冊数共に約10%増加した。また、駅西口図書館のイベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場、多世代交流の場を提供した。

4 28年度の目標(値)

図書館利用者数 155,000人

5 28年度以降の取組

(1) 駅西口図書館のイベントスペースを利用した文化交流事業について、多世代交流の場、また、市民が気軽に立ち寄れる官民連携イベント、プログラムの更なる充実を図り、文学館等広域的な連携事業も検討する。
 (2) 市立図書館の改修計画を進め、高齢者・乳幼児の親子などに利用しやすい図書館をめざすとともに、あわせて、市内東部地域への図書館整備を検討する。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施 策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	図書館業務推進事業		
予算額	68,530,000円	決算額	68,184,363円
1 事業概要			
<p>図書館の大きな使命である、市民の知的要求に的確に応えるため、「知の交流拠点」、「図書館と書店を融合した新しい文化交流施設」としての駅西口図書館に、中央図書館機能を導入し、リニューアルオープンさせた。</p> <p>また、図書館利用の更なる活性化のため、幅広い年齢層を対象に図書資料の購入、講座・おはなし会等の各種事業を実施した。</p>			
2 事業実績			
(1) 図書資料の購入			
	摘 要	購入冊数	(前年比較)
	図書資料	25,239冊	増18,271冊
			購入金額
			(前年比較)
			50,164,445円
			増38,850,139円
			その他資料（地図・法令集・官報等）購入金額
			264,444円
			(2) セカンドブック事業の実施 実施人数 586人 金額864,000円
			(3) 音訳者養成講座（初級）の開催 参加者 19人
			(4) おはなし会：実施回数 119回 参加者 児童569人 大人210人
			対面朗読：実施回数 45回 参加者 45人
			(5) ボランティアとの協働事業「子供への読み聞かせの指導・読み聞かせの実践」
			参加児童 読み手 9人 聞き手 29名 ボランティア 7名
3 上記2に対する評価			
(1) 駅西口図書館のリニューアルオープンに向け、前年の約3.6倍の25,239冊の資料を購入し、蔵書を更新した。また、除籍した資料22,292冊のうち6,313冊をリサイクル本として利用者に提供した。			
(2) 小学1年生を対象に本を1冊プレゼントするセカンドブック事業を実施し、本に親しむきっかけ作りを支援した。			
4 28年度目標(値)			
図書館利用者数 155,000人			
5 28年度以降の取組			
(1) 急速に進展する高齢化に対応するため、高齢者に配慮した、大活字本、高齢者向け紙芝居などの資料の充実及び周知を図る。			
(2) 講座等の開催を通し、対面朗読者、録音資料の録音ボランティア、読書会活動など、よりよい図書館運営のためボランティアとの連携を図る。			
(3) 学校と連携し小学1年生を対象に「セカンドブック事業」を継続実施し、本に親しむきっかけ作りを支援する。合わせて、読書の履歴として利用できる「読書通帳」について、児童だけでなく幅広い年齢層対し、利用方法等周知を図る。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	多様な学習機会の提供（2041）		
事業名	駅西口図書館整備事業		
予算額	386,479,000円	決算額	385,290,232円
1 事業概要			
<p>図書館の大きな使命である、市民の知的要求に的確に応えるため、「知の交流拠点」、「図書館と書店を融合した新しい文化交流施設」としての駅西口図書館に、中央図書館機能を導入し、リニューアルオープンさせた。</p>			
2 事業実績			
<p>平成27年10月1日駅西口図書館がリニューアルオープンし、市民から要望の高かった閲覧席などを拡充させ、市民の利便性を向上させた。</p> <p>また、図書館として初めて運営形態に指定管理者制度を導入し、休館日の縮小、開館時間の延長など、これまで利用者から寄せられた要望を実現することができた。</p>			
3 上記2に対する評価			
<p>(1) 拡充後の施設の面積は、従前の約2.5倍の1511.07㎡、閲覧席は、約3.5倍の115席と大幅に増やすことができた。また、指定管理者制度の導入、自動貸出機、図書消毒機など新しい機能の導入により、貸出者数、貸出冊数共に増加した。また、駅西口図書館のイベントスペースを利用した官民連携の文化交流事業を実施し、生涯学習の場、多世代交流の場を提供した。</p> <p>(2) 指定管理者の運営により、開館日数の増大、開館時間の延長が実現し、民間のノウハウを活用した利便性の高いサービスの提供を実現し、事業が完了した。</p>			
4 28年度の目標(値)			
事業完了			
5 28年度以降の取組			
事業完了			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	生涯学習・生涯スポーツの充実（204）		
基本事業	施設の充実（2045）		
事業名	生涯学習センター管理事業		
予算額	37,918,000 円	決算額	33,510,056 円
1 事業概要			
生涯学習実践の拠点施設として、生涯学習センターを構成する歴史民俗資料館及び川田谷公民館、図書館川田谷分室が健全に機能を発揮し、市民の学習の場を提供できるよう、施設の維持管理を行った。			
2 事業実績			
(1) 生涯学習センター共通			
利用者の安全及び施設利用環境の改善に関わる事業として、主に以下の事業を実施した。			
ア	設備保守委託	16,174,972 円	
イ	建築設備定期調査報告等業務委託		151,200 円
ウ	施設修繕料		
	屋内消火栓設備改修	86,400 円	
	避難誘導灯等修繕	75,600 円	
エ	幼児コーナー外部建具修繕工事	4,482,000 円	
(2) 歴史民俗資料館			
常設展示環境の改善を主に以下の事業を実施した。			
ア	展示台修繕	334,368 円	
イ	展示ケース照明器具修繕	14,040 円	
(3) 川田谷公民館			
ア	スポーツホール電動ブラインド修繕工事	1,155,600 円	
イ	スポーツホールステージ照明修繕工事	264,600 円	
(4)	図書館分室 図書館コンセント及びクロス修繕		24,840 円
3 上記2に対する評価			
(1) によって、安全管理にかかわる施設の整備を行うことができた。			
(2) によって、常設展示の整備の準備を行うことができた。			
(3) 及び(4) については、それぞれの施設について利用環境が改善した。			
4 28年度の目標(値)			
施設の現状の課題を取りまとめ、施設改修の計画を作成する。			
5 28年度以降の取組			
(1) 川田谷生涯学習センターを構成する各施設の機能を維持するために、設備と備品の整備を進める。			
(2) 施設の点検を実施し、現状の課題を取りまとめる。			
(3) 生涯学習センター大規模改修の事前準備として、施設改修の計画を立案する。			

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の深耕・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	文化財の保存と継承 (2064)		
事業名	資料調査・収蔵事業		
予算額	2,555,000円	決算額	2,486,597円
1 事業概要			
地域の歴史と文化に関わる資料について、調査収集を行い、これを収蔵した。			
2 事業実績			
(1) 資料収集事業			
以下の資料について、新規に収集を行った。			
ア 有形民俗資料：荒川の漁具 倉田地区の農具			
イ 歴史資料：旧加納村戸長役場関係資料 陸軍桶川飛行学校関係資料			
(2) 資料調査事業			
ア 歴史資料の調査：栗原家文書の整理解読 (継続事業)			
イ 美術資料の調査：武村徳松氏作品 (水彩画) の目録作成及びデジタル化			
ウ 無形民俗文化財の調査：天沼の花祭 薬師堂の村廻り 狐塚の接待餅 ささら獅子舞 (小針領家 松原 前領家 三田原)			
(3) 資料収蔵事業			
ア 保存処理事業終了の後谷遺跡第4次調査出土品の再収蔵			
イ 発掘調査資料の生涯学習文化財課からの移管収蔵 〔以上 補助員賃金 1,707,657円〕			
(4) 資料管理業務			
ア 収蔵庫内の資料の再配置を行い、有形民俗資料の精選作業を行った			
イ 燻蒸殺虫業務を委託実施した 〔委託料 366,228円〕			
ウ 収蔵環境調査を委託実施した 〔委託料 211,140円〕			
エ 民俗文化財記録写真のデジタル化等 以上〔消耗品費 35,480円 印刷製本費 5,400円〕			
3 上記2に対する評価			
本事業は、歴史民俗資料館のもっとも基礎的な業務として実施した。			
(1) は、依頼に基づき新規収蔵を実施した。			
(2) は、継続的に実施している事業であり、デジタル保存にも取り組んだ。			
(3) は、生涯学習文化財課と連携し、文化財の保存業務として実施したものである。			
(4) は、環境調査を実施した結果、※I PM実現の指針を得ることができた。			
4 28年度の目標(値)			
(1) 資料管理システムの運用により、収蔵資料目録情報管理を電算化する。			
(2) I PMによる収蔵資料管理を開始する。			
5 28年度以降の取組			
(1) 地域資料について調査資料の収蔵と登録を計画的に実施する。			
(2) 資料の収蔵環境を整え、I PMの手法による資料の健全な保存を目指す。			
(3) 資料管理システムの運用を図り、インターネットを活用した情報発信を進める。			

※I PM (Integrated Pest Management 総合的有害生物管理) とは、施設管理と病虫害の防除を統合的に実施し、環境にやさしい資料管理を実現すること。

施策の大綱	2 生きる力を育み次代に繋げる桶川をつくる		
施策	文化・芸術の深耕・保存・継承 (206) 生涯学習・生涯スポーツの充実 (204)		
基本事業	多様な学習機会の提供 (2041)		
事業名	教育普及事業		
予算額	239,000 円	決算額	191,360 円
1 事業概要			
桶川の歴史と文化を展示及び講座をとおして市民に広く伝えた。			
2 事業実績			
(1) 展示事業			
ア 企画展			
テーマ：「里の暮らしを物語る道具たち」			
開催期間：11月28日から1月31日		期間中参観者数：1,137名	
テーマ：「再発見 川田谷古墳群！」			
開催期間：2月6日～3月18日		期間中参観者数：1,541名	
イ 資料展示			
夏の民俗 桶川祇園祭と村廻り行事 (7・8月期)			
秋の祭礼とささら獅子舞 (9月期)			
雛人形展示 (3月期)			
〔消耗品費 82,960 円 印刷製本費 32,400 円〕			
(2) 講座事業			
ア 特別文化財講座			
テーマ：「川田谷古墳群の研究史」			
開催日：2月21日		講師：当館職員 参加者：50名	
テーマ：「語り、唄い継がれる民衆の歴史」			
開催日：3月19日		講師：県内研究者 参加者：73名	
イ 企画展資料解説講座			
テーマ：「里の暮らしを物語る道具たち」			
開催日：1月24日		参加者：19名 講師：当館職員	
テーマ：「埼玉県の古墳文化と川田谷古墳群」			
開催日：2月14日		参加者：47名 講師：県立さきたま史跡の博物館学芸員	
ウ 展示解説講座			
常設展示をもとに、テーマを定めて解説講座を実施した。			
実施回数：6回		参加者累計：94名	
〔報償費 76,000 円〕			
(3) 体験学習事業			
ア 紅花関連事業 (べに花まつり関連事業)			
実施日：6月20日 21日		実施回数：4回 参加者数：125名	
(4) 連携交流事業			
ア 学博連携事業			
・事業名：小学校3年生社会科「むかしの暮らしを調べる」に関わる見学			
支援内容：体験学習 資料見学 視聴覚教材作成 ボランティアの協力			
参加校：市内小学校6校 市外小学校2校 参加児童数：662名			

- ・事業名：小学校6年総合的学習の時間「加納の歴史」に係わる支援
支援内容：指導者派遣 参加児童数：63名

イ 公民館との連携事業

- ・事業名：古文書講座 支援内容：企画支援
- ・事業名：草餅づくり講座 支援内容：企画支援 体験学習室利用

ウ 福祉関係団体との連携事業

事業内容：介護施設利用高齢者に対する見学及び小講座の実施
実施回数：2回 参加者数：60名

エ 郷土史並びに社会教育団体に対する見学及び小講座の実施

実施回数：7回 参加者数：106名

オ その他市民団体との連携事業

事業内容：体験学習プログラム及び会場提供
実施回数：6回 参加者数：105名

(5) 展示参観者数

展示参観者数の推移は、下表のとおりである。

摘 要	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
入館者数 (人)	11,256	8,706	7,913
開館日数 (日)	287	294	300

3 上記2に対する評価

常設展示の参観者は減少傾向にある。このことは、開館時に比べ、展示施設の老朽化も原因と考えられる。

よって、一般的な参観者を待つという対応から、課題を掲げた講座や展示の実施、さらには、課題をもった参観者の希望に添う連携講座の実施を積極的に展開した。

(1) は、新収蔵資料並びに桶川の調査の結果を広く公開することができた。

(2) は、展示との関連性をもった講座を企画することによって、理解を深めることができた。

(3) 及び(4)については、主催講座の他、市民相互の交流を促進するという事業の趣旨を実現することができた。

4 28年度の目標(値)

(1) 展示業務

企画展示：年間2回 資料展示：4回以上

(2) 講座事業

特別文化財講座：1回 企画展関連講座：2回 資料解説講座：4回以上

5 28年度以降の取組

(1) 企画展示や講座の開催にあたっては、地域の課題を積極的に取り上げる。

(2) 市民団体や青少年団体との連携による事業の展開を図る。

(3) 観光振興の側面から、市内外への情報発信を積極的に進める。

(4) 常設展示の改修基本構想を策定する。

